

續ヲ爲スモ妨ナシ

第三條 前條ノ製氷用水ヲ採酌シ又ハ氷雪ヲ採出スル中ハ島廳又ハ郡市役所吏員ノ臨監ヲ請ヒ其容器ニ封印ヲ受クヘシ

但用水ノ容器ニハ磁壘又ハ硝子壘氷雪ノ容器ニハ箱又ハ桶ヲ用ユヘシ

第四條 飲食用ニ供スル製氷又ハ氷雪ヲ製造採出シ及之ヲ貯藏スルハ左ノ各項ニ觸レサルモノニ限ル

- 一 製氷用水ノ水源又ハ製造場及凍氷ノ所在地ハ人家、肥料貯藏場、魚鳥獸飼畜場、屠畜場、埋火葬場、傳染病者排泄物汚穢物並ニ獸畜死屍埋沒場燒棄場解体場ヲ距ルコト凡百二十間以上ニシテ芥溜溝渠等ニ隔絶シ汚穢物混入ノ虞ナキモノ
- 二 藥品ヲ以テ製造スルモノハ其藥質ヲ製氷ニ含有セシムルノ虞ナキモノ
- 三 貯藏場ハ倉庫家屋若クハ窖穴ニテ汚穢物混入ノ虞ナキモノ
- 四 積雪ハ人家ヲ隔ツル凡一里以上ノ山林原野又ハ高山ニ在ルモノニシテ第一項飼畜場以下ニ觸レサルモノ

第五條 検査ヲ經テ製造又ハ貯藏シタル製氷氷雪ヲ販賣セントスルトキハ第三條ノ手續ニ依リ現品凡二貫目ニ試験成績書寫ヲ添

ヘ島廳又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ヘ願出検査ヲ受クヘシ

但患者ノ外用ニ供スル爲メニ販賣スルモノニ限リ本條ノ手續ヲ要セス

第六條 夏季(六月ヨリ十月マデ)ニ於テ飲食用ニ供スル製氷々雪ヲ製造又ハ採出シテ販賣セントスルモノハ第二條第三條ノ手續ニ依リ縣廳ヘ願出検査ヲ受クヘシ

第七條 飲食用ニ供スル製氷又ハ凍氷ヲ他管下ヨリ運輸シテ販賣セントスルモノハ當該管廳ノ試験成績書寫並販賣許可ノ証明書ヲ添ヘ島廳又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ

其試驗未済ノ分及積雪ハ現品凡二貫目ヲ添ヘ島廳又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ニ願出検査ヲ受クヘシ

第八條 飲食用ニ供スル製氷々雪ヲ販賣スルトキハ居商行商ヲ問ハス左ノ様式ニ準シ標札ヲ造リ販賣許可ノ指令寫ヲ添ヘ島廳又ハ郡市役所ヘ差出シ檢印ヲ受ケ販賣所又ハ行商具ニ揭示スヘシ

但標札ハ其年十一月限り島廳又ハ郡市役所ヘ差出シ消印ヲ受クヘシ

明治二十五年縣令第百十七號標札書式中改正

明治二十五年縣令第百十七號改正

島廳又ハ郡市役所ニテ記入スヘシ 寸法適宜

製造場(水雪所在地)	何府縣何郡市町村大字何々
製造人又ハ販賣人	住所 姓 名
製氷又ハ凍水積雪	販賣人 住所 姓 名
年月日	行商人 住所 姓 名
島廳又ハ郡市役所烙印	

第九條 飲食用ニ供スル製氷々雪ヲ運搬若クハ販賣スルハ清潔ナル器ニ容レ汚穢物ノ混入セサル様蓋又ハ覆ヲ爲スヘシ

第十條 製氷々雪製造又ハ販賣中當該官吏ニ於テ飲食用ニ供スヘカラスト認ムルモノアルトキハ其製造貯藏若クハ販賣ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條 患者ノ外用ニ供スル製氷又ハ氷雪ハ前數條ノ規定ニ拘ハラズ製造又ハ貯藏スルコトヲ得  
前項ノ製氷々雪ハ其年十一月ヨリ翌年五月マテノ間ニアラサレハ販賣スルコトヲ得ス

第十二條 前條ノ製氷々雪ヲ貯藏セントスルトキハ島廳又ハ郡市役所ヘ届出其貯藏ヲ了リタル際貯藏場ニ封印ヲ受ケ販賣スルハ其開封ヲ請フヘシ

但滿期ノ際殘品アルハ更ニ封印ヲ受ケ若シ殘品ヲ棄却スルハ臨檢ヲ請フヘシ

第十三條 第十條ニ依リ停止セラレタル製氷又ハ氷雪ヲ患者ノ外用ニ供スル爲メ貯藏販賣スルハ妨ケナシ此場合ニ於テハ第十一條第十二條ニ從フヘシ

第十四條 第二條第五條第六條第七條第十一條第二項第十二條第十三條ヲ犯シタルモノ及第十條ニ依リ停止セラレタル製氷々雪ヲ飲食用ニ供スル爲メ販賣シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

製氷積雪販賣取締規則ニ依リ檢査ヲ經テ貯藏シタル製氷々雪ハ尙ホ其効ヲ有ス

甲第六十八號 明治十七年六月十六日

飲料水鑛泉製氷及製氷用水並ニ積雪等檢査出願ノ節ハ其容器ニ産出ノ地名番號字及出願人ノ姓名ヲ記載シタル木札又ハ紙ヲ貼付シ差出スヘシ此旨布達候事

○第十四章 墓地及埋葬取締規則

甲第五十三號

明治十八年三月十日

明治十七年<sup>月</sup>太政官第二十五號布達第八條ニ依リ墓地及埋葬取締細則別紙之通相定メ來四月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但明治十四年<sup>月</sup>本縣甲第百五號布達及明治十七年<sup>月</sup>本縣甲第  
六十一號布達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

(別紙)

墓地及埋葬取締細則

第一條 墓地ハ從前許可シタル場所ニ限ル

但從前許可ノ場所ト雖モ第三條ニ適合セサル位置ハ漸次改廢  
ヲ命スルコトアルヘシ

第二條 己ムヲ得サル事情アリテ墓地ヲ新設シ又ハ從前ノ區域ヲ  
取廣メントスルモノハ其事由ヲ具シ圖面ヲ添ヘ島廳又ハ郡市役  
所ヲ經テ縣廳ニ出願スヘシ明治二十四年縣令  
第二十九號改正

但許可ヲ得タル<sup>ル</sup>ハ願書并ニ圖面ノ寫ヲ添ヘ其旨所轄警察署  
ヘ届出ヘシ

第三條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ツ  
ル凡六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障リナキ地ニ限ル

第四條 墓地及火葬場ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若  
クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其  
從前別段ノ慣習アルモノハ此限ニアラス

死刑ニ處セラレタルモノハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬ス  
ヘキモノトス

傳染病者(虎列刺、癘疹、  
室扶斯、痘瘡)ノ死屍ハ一定ノ墓地ニ埋葬スヘシ尤モ止ム  
ヲ得サル中ハ通常墓地ノ一隅ヲ區劃シ其内ニ埋葬スルヲ得此場  
合ニ於テハ某病者ノ死屍タル墓標ヲ樹ツヘシ

但火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルハ此限ニアラス

第五條 墓地ノ周圍(墓地ト非墓地ト  
ノ境界ヲ云フ)ニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ  
一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラス

但從前ヨリ現存スルモノハ此限ニアラス

第六條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至  
リ難キモノ及火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルハ格別ナリトス

但六尺ニ至リ難キ事由アルモノハ管理者ヨリ豫メ其旨ヲ具シ  
所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百廿間以上ニシ  
テ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭烟ヲ防クノ裝置ヲ

ナシ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔テタル場所ナルハ唯周圍ニ塀牆ノミヲ設クルモ妨ナシ

第八條 火葬場ヲ新設シ又ハ既設ノ區域ヲ廣メントスルハ都テ第二條ニ據ルヘシ

第九條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第十條 火葬場内ニハ遺骨ヲ埋藏スヘカラス又火葬燒場外ニ於テ死屍ヲ燒クヘカラス火葬シタル灰燼ハ該場内ニ一定ノ場所ヲ定メ埋却スヘシ

第十一條 墓地火葬場ノ樹木ハ猥リニ伐採スヘカラス若シ之ヲ伐採セントスルハ其事由ヲ具シ縣廳ニ出願スヘシ

第十二條 墓地火葬場ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第十三條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其住所身分姓名ハ戸長役場ニ届出ツヘシ

但管理者ハ其關係ノモノニテ之ヲ撰フヘシ 明治十八年甲第百六十八號改正

第十四條 (明治二十四年縣令第六十四號削除)

第十五條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ左ノ届書若クハ証書ヲ添ヘテ死亡地戸長ノ認許証ヲ乞フヘシ

一 主治醫ノ死亡届書

一 醫師ノ治療ヲ受タル猶豫ナクシテ死亡シタル者ハ醫師ノ檢案書

一 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルハ醫師若クハ産婆ノ死産証變死ニ係ルハ立會醫師ノ檢按書ニ檢視官ノ檢印ヲ受ケタル者

一 囚徒ノ死屍ニ係ルハ獄醫ノ死亡証書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ受ケタル者

第十六條 改葬ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ戸長衛生委員ノ奥書ヲ得テ所轄警察署ヘ出願スヘシ

一 已ニ埋葬シタル墓地名及改葬セントスル墓地名

一 死者ノ族籍身分職業姓名及死亡時ノ病名

一 改葬ヲサントスル者ノ族籍身分職業姓名及改葬セントスル事由

第十七條 碑表ヲ建設セントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ所轄警察署ヘ出願スヘシ

但死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建設者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ出願ニ及



卿ニ届出ツヘ

○第十五章

屠畜取締規則

縣令第九十三號

明治廿二年六月廿六日

屠畜取締規則別紙ノ通相定メ明治十九年<sup>時</sup>ニ縣令第五十貳號屠畜取締規則ヲ廢ス

(別紙)

屠畜取締規則

第一條 此規則ニ稱スル畜類ハ牛馬羊豚ノ類ヲ云フ

第二條 屠畜場ハ人家道路河湖井泉ヲ隔ツルコト二町以外ノ地ニ非レハ建設スルヲ許サス尤モ地勢ニヨリ特許スルコトアルヘシ

但屠畜營業上必要ノ家屋ハ場外五間以外ノ地ニ建設スルコトヲ得

第三條 屠畜場ヲ建設セントスルモノハ第二條第七條ニ掲クル地所建物及坪數ヲ詳記セル圖面并接近地主ノ承諾書ヲ添ヘ借地ナレハ地主連署所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ買受又ハ讓受ケタルモノハ前場主連署届出ヘシ  
明治二十四年縣令第八號改正  
屠畜營業ヲナサントスルモノ又ハ屠手タラントスル者ハ場主連署所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ  
明治二十四年縣令第八號改正

第四條 (明治廿四年縣令第四十四號削除)

第五條 屠畜場建設ノ上ハ所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ケサレハ開場スルヲ許サス

第六條 屠畜場ヲ廢シ又ハ場主轉住改姓名ノトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ但該届書ハ駐在巡查ニ差出スコトヲ得  
明治二十四年縣令第八號改正

屠畜營業者及屠手廢業又ハ轉住改姓名ノキ亦全シ  
明治二十四年縣令第八號改正

第七條 屠畜場ハ左項ニ從ヒ血液其他汚穢物ノ滲透流散セサル様構造スヘシ

一 外圍ニハ適宜ノ塀欄ヲ設ケ畜類ノ逸走及外見ヲ防キ四方ニハ標木ヲ建テ其區域ヲ劃ルヘシ

二 屠場ノ周圍ハ石造又ハ板張りニシテ地盤ハ切石ヲ敷キ汚水ヲ流通スヘキ石樋ヲ設ケ汚水池ニ導クヘシ

三 汚水池ハ石造又ハ甕ヲ用ヒ屠場ヲ距ルコト十五間以外ニ設ヘシ

第八條 屠畜場内外ハ清潔ニ掃除シ皮肉ハ場所ヲ定メテ之ヲ置キ骨腸臟腑ノ類ハ直ニ屠畜場外第二條ニ適スル一定ノ地ニ埋却スヘシ

但肥料ノ爲メ一時貯藏スルモハ屠畜場ヲ距ル十五間以上一定ノ場所ニ設ケ堅牢ナル桶又ハ溜壺ニ密閉スヘシ

第九條 屠畜場ハ臨檢警察官吏ノ許可ヲ得サレハ開閉スルヲ得ス但閉鎖ノ節ハ臨檢警察官吏ノ封印ヲ受クヘシ

第十條 屠類ヲ屠殺セントスルモハ所轄警察署又ハ分署へ届出警察官吏並獸醫ノ臨檢ヲ受ケ屠殺解体スヘシ

第十一條 屠殺スヘキ畜類ハ身元不分明ノ者ヨリ買取ルヘカラス但其人ヲ知り得タルモノ二人以上ノ保証アルモハ此限ニアラス

第十二條 屠殺法ハ左項ニ據ルヘシ

一 撲殺器ニテ倒シ充分放血セシムヘシ

二 臟腑蹄皮ヲ除キ高ク釣揚ケ脊髓ヲ鋸割シ其鋸割シタルモノヲ中央ヨリ横斷シテ四個トナスヘシ

但羊豚類ハ此限ニアラス

三 筋肉ノ表邊血液ノ着キタル部内ハ勿論其他ト雖清潔ナル布片ヲ以テ拭フヘシ

第十三條 畜類ヲ屠殺シタルモハ其年月日屠畜ノ種類頭數及年齡肉量(骨付)ヲ屠畜簿ニ記載シ臨檢警察官吏ノ檢印ヲ受クヘシ

第十四條 左ニ掲クルモノハ食料トシテ屠殺スルヲ許サス

一 老弱シタル畜類

但獸醫ニ於テ食用ニ適スルモノト認ムルトキハ特ニ許スヲアルヘシ

二 瘰癧及疾病アル畜類

三 獸類傳染病流行地ヨリ來リタル畜類

但四週日後獸醫ノ檢按ヲ經テ無病ナルヲ徵セハ屠殺ヲ許スヘシ

第十五條 屠肉ニハ臨檢警察官吏ヨリ檢査烙印ヲ受クヘシ

第十六條 屠肉ハ卸賣人ノ外他ニ賣渡スヲ許サス

第十七條 屠畜營業者ハ左項ヲ禁ス

一 屠手ノ認可ヲ得サルモノニ屠殺セシムルヲ

屠畜場内ニ於テ他獸及斃畜類ヲ屠殺解体シ又ハ場外ニ於テ屠殺解体セシ他獸及斃畜類ノ肉類ヲ場内ニ入ルヲ

屠殺場内ニ疾病アル獸畜類ヲ牽入レ又ハ之ヲ畜養スルヲ

第十八條 營業者ニアラサルモ食料ニ供スル爲メ畜類ヲ屠殺スルモノハ屠殺場ニ於テスヘシ

前項ノ場合ニ於テ屠畜營業者ハ屠殺ニ要スル費用トシテ一頭ニ

付金五拾錢以内ヲ請求スルヲ得明治二十四年縣令第八號改正

第十九條 警察官吏及衛生官吏ハ臨時屠殺場ニ至リ検査スルヲアルヘシ場主營業者ハ之ヲ拒ムヲ得ス

第二十條 本則第三條第五條第八條第九條第十條第十一條第十四條第三項第十六條第十七條第十八條第一項ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ處分セラルヘシ明治二十四年縣令第八號改正

○第十六章

屠肉販賣取締規則

縣令第五十三號

明治十九年十二月十日

屠肉販賣取締規則別紙之通改定ス

(別紙)

屠肉販賣取締規則明治二十二年縣令第九十四號ヲ以テ牛肉トアリシヲ屠肉ト改正

第一條 屠肉牛肉ヲ販賣又ハ行商セントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受ケ行商者ハ鑑札ヲ受クヘシ明治二十四年縣令第三十六號改正

轉居改姓名又ハ廢業ノトキハ其旨速ニ届出ヘシ但該届書(行商者ヲ除ク)ハ駐在巡查ニ差出スコトヲ得明治二十四年縣令第三十六號全

行商者ニ於テ前項ノ場合及鑑札ヲ遺失シタルトキハ鑑札ヲ返納シ若クハ書換再渡ヲ請フヘシ明治二十四年縣令第三十六號改正

第二條 卸賣人ハ検査済ノ烙印(此管下ヨリ輸入ノ屠肉ニ限ントキハ其府縣令ニ依リテ之ヲ檢査分署ノ烙印又ハ警察官ノ烙印)ヲ中

屠肉ハ販賣スルヲ許サス明治二十五年縣令第七十二號改正

第三條 卸賣人ハ卸賣帳簿ヲ製シ受賣人ニ賣渡スノ際受賣人ノ住

所姓名年月日及肉ノ斤量北肉質(上)(中)(下)ヲ記載シ受賣人ノ

受賣帳簿ニモ全様ニ明記シ卸賣人ノ割印ヲナスヘシ

第四條 卸賣人ハ賣肉一塊毎ニ左ノ証印ヲ貼付シ割印ヲナシ尙受

賣帳簿ト証印紙ト割印スヘシ

但証印紙ノ見本ハ本縣第二部及所轄警察署ニ届出ヘシ

明治何年何月日

(上)(中)(下)

(北)(牡)

郡何町村

卸賣人

何之誰

薄キ洋紙割印ハ黒肉ニシテ

肉ト割印スヘシ

此割印ハ貼付前コナスヘシ

受賣帳簿割印ハ朱肉ヲ用ユ

第五條 行商人ハ行商鑑札及第三條ノ帳簿ヲ携帯スヘシ

第六條 受賣人ハ許可ヲ得タル卸賣人ヨリ買受ケタルモノニアラ

サレハ販賣ヲナスコトヲ得ス

但受賣人ハ卸賣ヲナスコトヲ得ス

第七條 賣肉ハ總テ土器又ハ漆器ヲ用若クハ綿布又ハ麻巾ヲ纏

ヒ外物ノ浸入ヲ防クヘシ



第八條 警察官吏及衛生官吏ハ臨時検査スルコトアルヘシ販賣人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス明治二十五年縣令第三十二號本條以下編上

但食用ニ害アリト認ムルモノハ其販賣ヲ停止シ現品ハ棄却セシムルコトアルヘシ

第九條 第一條第一項第二條第三條第四條第五條第六條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ處分セララルヘシ明治二十二年縣令第三十六號全二十五年縣令第七十二號改正

第十七章

牛乳搾取及販賣取締規則

甲第六十五號

明治十八年三月廿四日

牛乳搾取及販賣取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事

牛乳搾取及販賣取締規則

第一條 牛乳ヲ搾取シ及之ヲ販賣セントスル者又ハ請賣セントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受クヘシ明治二十四年縣令第三十四號改正轉居改姓名又ハ廢業ノトキハ其旨速ニ届出ヘシ但該書ハ駐在巡查ニ差出スコトヲ得明治二十四年縣令第三十四號全二十五年縣令第七號改正

第二條 糞場ハ人家若クハ飲料水ニ供スル川井ニ近接シタル場所ニ設クヘカラス  
但牛乳搾取願書ニハ糞場ノ地名坪數及人家ノ距離ヲ記シタル

圖面ヲ添ヘ借地ナレハ持主ト連署スヘシ

第三條 糞場ハ清潔ヲ旨トシ惡臭ノ發セサル様常ニ掃除ヲ怠ルヘカラス

第四條 畜牛病ニ罹ル時ハ速ニ健牛ト隔離スヘシ

第五條 乳汁ヲ貯藏シ又ハ運搬スル器具ハ陶器硝子器鐵葉器ヲ用ユヘシ

第六條 此業ヲ營ムモノハ左項ヲ禁ス

一 病牛孕牛ノ乳汁ヲ搾取スルコト

二 糞場ニ於テ牧畜シ又ハ賣買ノ牛ヲ繋クコト

三 銅鉛器ヲ以テ乳汁器具ニ供用スルコト

四 乳汁ヲ稀薄ナラシメ又ハ他物ヲ混スルコト

五 不良ノ飲食物ハ勿論腐敗ノ傾アル飲食物ヲ與フルコト

第七條 母牛ノ頭數乳汁搾取ノ容量ハ每一ヶ月分ツ、衛生委員ニ届出ツヘシ

第八條 警察官吏衛生官吏及衛生委員ハ臨時ニ糞場搾取所畜牛及牛乳等ヲ検査スルコトアルヘシ該營業者ハ之ヲ拒ムヲ得ス

但検査ノ上畜牛ノ躰質不良ニシテ搾乳ニ適セサルト認ムルカ若クハ乳汁ノ性質不良ト認ムル時ハ其搾取又ハ販賣ヲ禁シ若

クハ現品ヲ棄却セシムヘシ

第九條 第一條前項第四條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ處分セラルヘシ 明治二十二年縣令第六十八號全  
二十四年縣令第三十四號改正

○第十八章 獸畜死屍取締規則

縣令第十八號 明治二十年二月廿一日

獸畜死屍取締規則別冊ノ通相定メ來四月一日ヨリ施行ス

(別冊)

獸畜死屍取締規則

第一條 獸畜死屍ノ燒棄埋沒解体ハ第二條第四條ニ依リ許可ヲ得

タル場所ニアラサレハ之ヲ爲スヘカラス 明治二十四年縣令第九號改正

第二條 獸畜ノ死屍燒棄場又ハ埋沒場ヲ設置セントスルモノハ左

項ニ從ヒ繪圖面ヲ添へ使用者二名以上連署島廳又ハ郡市役所ヲ

經テ縣廳ニ願出廢場ノトキハ島廳又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ニ届

出ヘシ 明治二十五年縣令  
第百二十號改正

一 燒棄場ハ共用ニシテ人家ヲ距ルコト凡ソ百二十間以上ノ場

所ヲ撰ミ臭烟ヲ防クノ裝置ヲ爲シ周圍ニ塹牆ヲ設クヘシ 明治  
二十五年縣令第百  
二十號改正

但山林原野等ニテ人家ニ遠隔シタル場所ハ木文ノ裝置ヲ

爲サハルモ妨ケナシ 明治二十五年縣令  
第百二十號改正

一 埋沒場ハ共用ニシテ人家ヲ距ルコト六十間以上國道井川等

ニ沿ハス土地乾燥飲料水ニ障害ナキ場所ヲ撰ムヘシ 明治二十  
五年縣令第百  
二十號改正

第三條 獸畜ノ死屍ハ成ルヘク燒棄スヘシ若シ燒棄シ難キトキハ

六尺以上ノ地下ニ埋沒スヘシ

第四條 獸畜死屍解体場ヲ設置セントスルモノハ第二條末項ニ適

スル場所ヲ撰ミ接近地主ノ承諾書ヲ添へ所轄警察署又ハ分署ニ

願出許可ヲ受ケ廢場シタルキハ其旨届出ヘシ 明治二十四年縣  
令第九號改正

第五條 解体場ニハ豫テ帳簿ヲ製シ置キ獸名並元飼主及賣渡人ノ

住所姓名解体ノ月日ヲ記載シ置クヘシ

第六條 解体場ハ專ラ清潔ヲ主トシ汚物ノ棄却スヘキモノハ第一

條ノ場所ニ於テ燒棄又ハ埋沒シ肥料ニ化製スルモノハ堅牢ナル

桶又ハ溜壺ヲ設ケ之ヲ密閉シ泄漏及臭氣ノ發散ヲ防クヘシ

第七條 解体場内ニ於テハ左項ヲ爲スヲ得ス

一 肥料ニ化製セサル肉及内臟ヲ他ニ賣渡スコト

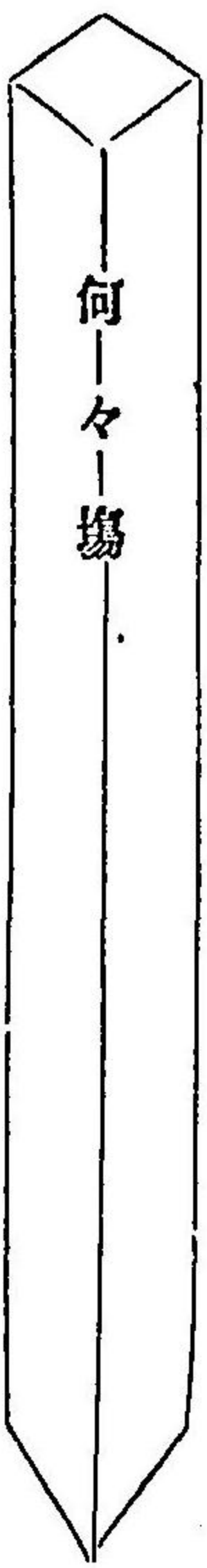
一 食料ニ供スル獸類ヲ解截スルコト

一 傳染病ニ罹リタル獸類ヲ解体スルコト

第八條 獸畜死屍燒棄場及埋沒場解体場ニハ左ノ標木ヲ建ツヘシ  
但解体場ノ外圍ニハ適宜ノ塀柵ヲ設クヘシ

四寸角 高地上六尺

何々々場



第九條 解体場ニハ衛生官吏警察官吏臨檢スルコトアルヘシ

第十條 第一條第七條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料

ニ處ス明治二十四年  
令第九號改正

第十九章 飲食物ニ蓋又ハ覆ヲ設クル件

島根縣令第百十八號 明治廿五年十二月廿三日

飲食物(砂糖、餅、菓子、鮓、麵類、豆腐、糞物等)ノ如ク其儘食スヘキ  
モノ)ヲ店舗ニ於テ販賣シ若クハ行商スルモノハ其容器ニ蓋又ハ  
覆ヲ設ケ蠅類及塵埃ヲ防クヘシ

○第二十章 種痘細則

甲第百六十九號 明治十八年十二月二十五日

種痘細則別紙之通相定明治十九年一月一日ヨリ施行ス此旨布達候  
事 但明治十八年本縣甲第四十二號布達天然痘豫防細則ハ本文

施行ノ日ヨリ廢止ス

(別紙)

種痘細則

第一條 種痘ハ毎年三月ヨリ六月マテ 定期施行スヘシ

第二條 種痘規則第三條ノ施行ヲ要スル時ハ其時々告示スヘシ

第三條 種痘ノ期日及場所等ハ其都度戸長之ヲ町村内ニ告知スヘシ

第四條 醫師ヨリ附與スル所ノ種痘天然痘ノ証書ハ甲乙號式ニ準  
據スヘシ

第五條 種痘規則第四條ノ届書ハ丙號式ニ準據スヘシ

第六條 戸長ハ豫テ種痘人名簿ヲ製シ置キ毎年二回種痘定期ニ先  
十十六年未滿ノ種痘ヲ爲スヘキ者ヲ拔錄シ漏ナク種痘ヲ勸奨ス  
ヘシ

第七條 種痘規則第三條ノ場合ニ於テハ天然痘濟ノ者及種痘規則  
第一條第二條ノ期限ニ據リ三種痘ヲ終ヘシ者ヲ除クノ外十六歳  
未滿ノ者ハ都テ種痘ヲサシムヘシ

但種痘后二ヶ年ヲ經サルモノハ之ヲ爲サ、ルモ妨ケナシ

第八條 戸長ハ種痘規則第六條ノ届書ヲ受領シタル中ハ種痘人名

簿ニ種痘濟又ハ天然痘濟ノコトヲ記入シタル上証書ハ該簿ト割印シテ本人ニ返付スヘシ

第九條 醫師ハ相當ノ種痘料ヲ收入スルコトヲ得明治二十五年附令第三十號改正

第十條 醫師收入スル所ノ種痘料ハ初種一人ニ付金五錢以下再三種一人ニ付金三錢以下タルヘシ

第十一條 醫師ハ各種痘期ニ先テ痘苗ノ準備ヲナシ種痘ノ期日ヲ定メテ其門戸ニ揭示シ且開業醫組合部内ノ戸長ニ通知スヘシ

第十二條 醫師種痘ヲナスハ明治十八年四月本縣甲第七十四號布達種痘施術心得書ニ據ルヘシ且種痘檢疹ヲナシ其初種ニシテ不善感ナルモノ若シ病氣又ハ事故アリテ復種シ難キハ後日復種ヲ怠ルヘカラサルヲ示スヘシ

第十三條 未決已決監禁留ノ囚徒ニシテ種痘期ニ該當スルモノハ監獄署ニ於テ種痘シ其善感不善感又ハ種痘期内ニ於テ接種シ能ハサルノ事由若クハ天然痘濟ノ事ハ其時々本籍戸長ニ通知シ置キ種痘及天然痘濟ノ証書ハ出監ノ節直ニ本人ニ交付スヘシ此場合ニ於テハ豫テ監獄署ニ種痘人名簿ヲ製シ置キ其記入及証書ト割印等ノ手續ハ司獄官ニ於テ之ヲ爲スヘシ明治十九年甲第九號改正

第十四條 十六歳未満ニシテ他府縣ヨリ本縣ニ入籍又ハ寄留スル者ハ其際種痘及天然痘濟ノ証書ヲ入籍又ハ寄留地ノ戸長ニ差出スヘシ戸長ハ種痘人名簿ニ記入ノ上本人ニ返付スヘシ明治十九年甲第九號改正

第十五條 前條入籍又ハ寄留ノ者ニシテ曾テ病氣或ハ事故アリテ種痘ヲ爲サ、リシ者ハ其事由ヲ詳記シ入籍又ハ寄留地ノ戸長ニ届出ツヘシ戸長ハ先方戸長ニ照會ノ上之ヲ種痘人名簿ニ記入スヘシ明治十九年甲第九號改正

(書式畧ス)

○参照

種痘規則 明治十八年十月 布告第三十四號

第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以内ニ之ニ行フヘシ若シ不善感ナルハ更ニ一週年内再三種ヲ行フヘシ

第二條 種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フヘシ

第三條 天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラヌ掛官吏ノ指定シタル期日内ニ種痘ヲ行フヘシ

第四條 種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルトキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ証印ヲ爲シタル証書ヲ副ヘ戸長役場ニ届出ヘシ

第五條 種痘ヲ受シ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘証ヲ受領シ戸長役場ニ届出ヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其証ヲ受領シ本條ニ準スヘシ  
第七條 十六歳未満ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ

貧院育兒院等ハ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ  
第八條 醫師ハ痘痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘証ヲ付與スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其証ヲ付與スヘシ  
第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度内務卿ニ報告スヘシ  
第十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○第二十一章 傳染病

島根縣令第三十八號 明治廿四年三月十三日

傳染病者排泄物汚穢物埋沒場燒棄場取締規則左ノ通相定ム

傳染病者排泄物汚穢物埋沒場燒棄場取締規則

第一條 傳染病者ノ排泄物汚穢物ハ本則ニ依リ設置シタル場所ニ於テ埋沒又ハ燒棄スヘシ

第二條 排泄物汚穢物埋沒場燒棄場ヲ設置セントスルキハ其地名字番號地種地目反別地主ノ姓名及使用關係ノ地名並ニ第三條ニ關スル事項ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ島廳又ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ヘ願出廢場シタル時ハ届出ヘシ

第三條 排泄物汚穢物埋沒場燒棄場ハ市町村又ハ町村内大字(テ止ム)ノ場(一部落)ノ共用ニシテ左ノ各項ニ觸レサル場所ニ限ル但從前許可ノ場所ト雖モ本條ニ抵觸スルモノハ改廢ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 埋沒場ハ國道並ニ交通頻繁ナル道路及河川ニ添ハス人家並ニ飲料水ヲ隔ツル凡百二十間以上ニテ高燥ナル地
- 二 燒棄場ハ人家ヲ距ル凡百二十間以上ニシテ飲料水ニ接近セサル地

第四條 排泄物汚穢物埋沒ハ六尺以上ノ地下ニ於テ爲スヘシ

第五條 排泄物汚穢物埋沒場燒棄場ニハ適宜ノ範圍ヲ設ケ其場名ヲ記シタル木標ヲ建ツヘシ

第六條 第一條ヲ犯シタルモノハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

排泄物汚穢物ノ埋沒場燒棄場ハ廢場後一ケ年以上ヲ經ルニ非サレハ家屋ヲ建テ又ハ井池等ヲ穿ツコトヲ得ス

島根縣令第二十三號 明治廿四年二月廿七日

明治十六年一月本縣甲第九號布達傳染病取扱手續左ノ通改正ス

傳染病取扱手續

第一條 醫師傳染病患者ヲ診斷シタルキハ傳染病豫防規則第二條ニ據リ其病名住所姓名職業ヲ市長戸長町村長ニ通知スヘシ患者轉歸シタルキハ其姓名月日ヲ通知スヘシ

但土地ノ便宜ニヨリ警察署警察分署又ハ駐在巡查ニ届出ルモ妨ナシ此場合ニ於テハ警察署警察分署又ハ駐在巡查ハ市長戸長町村長ニ通知スヘシ

第二條 市長戸長町村長前條本文ノ通知ヲ受ケタルキハ其住所姓名職業生年月ヲ詳記シ市長ハ直ニ戸長町村長ハ島廳若クハ郡役所ヲ經由届出テ同時ニ警察署警察分署又ハ駐在巡查ヘ報告スヘシ

第三條 島廳郡役所及警察署又ハ警察分署ハ傳染病發生セシキハ速ニ吏員ヲ派遣シ傳染病豫防規則ニ從ヒ實施上監督スヘシ

第四條 島廳郡役所市役所戸長役場町村役場ハ部内傳染病ノ發熄時日地名患者死者ノ員數等ヲ詳記シ其時々各所ヘ揭示スヘシ  
第五條 患者死者排泄物ノ運搬並死者ノ埋火葬排泄物ノ埋燒却ノ節ハ必ス警察官吏ノ監護ヲ受クヘシ

但時宜ニヨリ警察官吏ノ外相當取締人ヲシテ監護セシムルコトアルヘシ

第六條 避病院ヲ開設シタル場合ニ於テ當該官吏豫防上必要ト認メタルキハ入院治療セシムヘシ

第七條 虎列拉發疹瘰癧ノ死亡者ハ埋火葬ノ後ニアラサレハ葬儀ヲ爲スヲ許サス

第八條 市町村立避病所ヲ設立スルキハ其常置ニ係ルモノハ位置構造及最寄ノ地況ヲ詳記セル圖面ヲ添ヘ認可ヲ乞フヘシ一時ノ假設ニ係ルモノハ其旨届出ヘシ

訓令第二百四十號

明治廿三年十二月一日

島廳 郡役所 警察署 分署

市役所 戸長役場 町村役場

今般傳染病豫防心得別冊ノ通内務大臣ヨリ訓令セラレタルニ付自今豫防ノ方法ハ此趣旨ニ據リ取扱ヘシ

但本文ニ關スル從前ノ訓令ハ總テ廢止ス

(別冊)

傳染病豫防心得書

傳染病ノ流行ハ一人一家ヨリ町村郡市ニ及ヒ遂ニ延テ府縣全國ノ

災害トナルモノニシテ之ヲ豫防スルニハ一人一家ノ始メニ於テスルニ非サレハ其全功ヲ收ムルヲ能ハス今ヤ郡市町村各其利害ヲ負擔シ處理スルノ日ニ及テハ傳染病ノ如キ其病毒ヲ一人一家ニ撲滅シテ全聚落ノ生命財産ヲ安全ニ保護スルハ自治事業ノ最モ急要ナルモノトス故ニ若シ其市町村ニ傳染病者發生スルコトアレハ所在ノ醫師ハ成規ノ通報ヲ爲シ豫防上ノ要件ヲ病家ニ示諭シ病家ハ醫師及ヒ當該吏員ノ示諭スル諸件ヲ守リ當該吏員ハ十分ノ注意ヲ以テ豫防消毒ノ處置ニ疎虞遺漏ナカラシムルコトヲ務ムヘシ而シテ豫防ノ方法ヲ實際ニ徹底セシメントスルニハ衛生組合ヲ設ケ組合中互ニ警戒扶持スルヲ良シトス蓋シ傳染病ノ流行ハ其初メ些細ノ注意ヲ缺キ或ハ患者ヲ隱蔽シ又ハ吐瀉物ヲ下水、芥溜等ニ投棄シ又ハ病毒感染ノ疑アル雇人稼人等ヲ猥リニ歸郷セシムル等ニ因リ病毒遠近ニ傳播シ復タ防遏スヘカヲサルノ勢ヲナス其例証一ニシテ足ラス到底衛生組合ノ法ヲ設ケ隣保相互ノ制裁ヲ以テ各人ノ注意戒慎ヲ喚起スルニ非サレハ市町村共同ノ方法モ其全効ヲ收ムルコト能ハサルナリ

以上ハ豫防實施上市町村ニ於テ擔當スヘキ用意ノ要領ニシテ若シ其流行數市町村ニ及フカ若クハ病性ノ急劇ナル虎列刺ノ如キモノニ在テハ更ニ郡又ハ府縣ノ力ヲ以テ豫防ノ方法ヲ務メサルヘカラス

此心得書ハ主トシテ患者發生セル時ノ處置即チ有病時ノ豫防法ヲ舉ケタルモノナレトモ總テ傳染病ハ地方病トナリテ年々發現スル地ヲ除クノ外ハ概チ數年若クハ數十年ヲ隔テ、流行スルカ故ニ其流行セサル時ニハ永ク本病ノ災害ヲ免カレ得タルカ如キ思フ爲スト雖モ傳染病毒ハ不潔汚穢ノ土地ニ入レハ容易ニ蕃殖蔓延スルモノナルヲ以テ平常上地下水ノ改良ニ注意シ掃除ノ方法ヲ設ケル等万全根治ノ策ヲ怠ラス用水ヲ純清ニシ住地ヲ乾淨ナラシムルニ非サレハ決シテ其流行ヲ免カル、能ハス故ニ就中都會ノ地ニ於テハ銳意上地下水ノ改良工事即チ水道暗渠布設ノ事ヲ計畫シ衛生上百年ノ長計ヲ成ヌヲ要ス

### 總 則

第一條 市町村ニ於テハ便宜衛生組合ヲ設ケ清潔法、攝生法其他傳染病豫防ノ事ニ就キ規約ヲ立テ之ヲ履行スルヲ要ス

第二條 醫師傳染病者ヲ診斷シタルトキハ時ヲ移サス成規ノ通知ヲ爲スハ勿論此心得書各病ノ部ニ掲ケタル豫防方法ヲ病家ニ懇諭スルヲ要ス

第三條 市町村ノ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ傳染病者ヲ診斷セ  
ル旨醫師ノ通知ニ接シタルトキハ速ニ病家ニ臨ミ病室、器具、被  
服及ヒ便所等ノ消毒ヲ施行スル等相當ノ處分ヲ怠ラサランコト  
ヲ要ス

前項醫師ノ通知ニ接セサルモ傳染病ニ疑ハシキ患者アルトキハ  
衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ醫師ヲシテ之ヲ診察セシメ其見込  
ニ從ヒ豫防消毒ノ處置ヲ爲スコト前項ノ如クナランコトヲ要ス

第四條 傳染病者ノ自宅治療ヲ爲セル家ハ衛生主務吏員又ハ警察  
官吏時々之ヲ巡視シテ豫防ノ方法ヲ守ルヤ否ニ注意シ又時宜ニ  
依リテハ人夫ヲシテ病毒ニ汚染セルモノヲ取り集メシメ消毒法  
ヲ施スヲ要ス

第五條 傳染病者治癒又ハ死亡シタルトキハ衛生主務吏員又ハ警  
察官吏ハ患者ノ身體若クハ死屍、看病人患者ノ居室其他病毒ニ  
汚染セル衣服、器具等ニ消毒法ヲ行フヲ要ス

第六條 總テ消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員、人夫等ハ其都度消  
毒法ヲ行ヒ又患者運搬器等モ使用シタル毎ニ消毒法ヲ施スヲ要  
ス

第七條 郡市北海道的ニ於テハ長其所轄内ニ傳染病發生シタルトキハ其豫防  
法ヲ周到ナラシメ又有病地ノ病況ト豫防法實施ノ景況トヲ具シ  
テ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

虎列刺

虎列刺ハ傳染病中ノ最モ猛惡ナルモノニシテ其蔓延流行スルニ  
當テハ兇暴慘虐至ラサルナキコト世人ノ普ク熟知スル所ナリ抑  
モ本病ノ病毒ハ一種ノ細菌ニシテ主トシテ患者ノ吐瀉物中ニ舍  
ルカ故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモ  
ノ、消毒法ニ遺漏ナカラシムルハ勿論患者發生ノ最初即チ病毒  
ノ未タ散蔓セサル前ニ於テ十分消毒法ヲ行ヒ病災ヲ其一小局部  
ニ熄滅セサルヘカラス

第一條 虎列刺患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ其他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人  
ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケ  
シムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通  
ヲ良クスルコト
- 四 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ



豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ其吐瀉物ハ成ルヘク之ヲ焼却スルコト

五 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ灌キ（成ルヘク能ク攪拌スヘシ）爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト

六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ吐瀉物ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

七 患者ノ身體、吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル様注意スルコト

八 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ吐瀉物ニ觸レサル様注意シ且ツ其吐瀉物及之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

九 患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラサルコト

十 患者ト居テ全フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサルコト

第二條 虎列刺發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト

二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得サルトキハ煮沸シテ之ヲ用フルコト

三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ改修スルコト

四 飲食物ハ成ルヘク熟食シテ用フルコト

五 總テ下痢ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且ツ其下痢患者ノ上レル便所ニハ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌クコト

第三條 虎列刺流行ノ際下痢若クハ吐瀉スル者アルトキハ其瀉下物吐出物ニ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌キ醫師ノ診斷ヲ乞フヘシ

第四條 虎列刺發生ノ初ニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムルトキ

ハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルコトアルヘシ

一 該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖モ別棟等判然區別スルヲ得ヘキトキハ其部分ノミヲ遮斷シ又極テ病家ニ接近シタル家屋不潔狹矮ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ

二 前項及傳染病豫防規則第十五條第二項ノ場合ニ於テ交通遮斷ヲ施行スルトキハ遮斷部分ノ區域ヲ明示シ醫師、掛吏員、人夫等職務上要用アル者ノ外他ト交通ヲ制止スルコト

三 交通遮斷施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムコト

四 交通遮斷中ハ市町村吏員又ハ警察官吏ニ於テ其區域内ノ清潔法等ニ注意スルハ勿論醫師ヲシテ區域内ノ各家ヲ巡診セシメ且豫防法ヲ諭示セシムルコト

五 患者治癒若クハ死亡シ又ハ患者ヲ避病院ニ隔離スル等遮斷區域内ノ患者全ク絶テヨリ五日間ヲ經過スルモ新患者ヲ發生セサルトキハ遮斷ヲ解除スルコト

六 遮斷區域内ノ患者絶ヘサルモ區域外ニ患者ヲ發生シ病毒已

ニ他方ニ及ヒタリト認ムルトキハ速ニ遮斷ヲ解除スルコト  
第五條 交通遮斷區域内若クハ曾テ虎列刺ノ流行アリシ不潔ノ場所ニ於テハ左ノ方法ニ據リテ消毒的清潔法ヲ施行スルコト

一 下水ニハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通セシムルコト

二 芥溜ノ塵芥ハ成ルヘク之ヲ燒却シ若シ燒却スルヲ得サル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周子ク撒布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ尙ホ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 家屋ニハ左ノ方法ニ依リ大掃除ヲ爲スコト

一 家什ヲ出シ疊ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具、疊、建具等ハ日光、空氣ニ曝スコト

二 床下ノ塵芥ヲ除去シ成ルヘク其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト

三 衣服臥具ハ殊ニ能ク日光、空氣ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト

第六條 虎列刺流行ノ虞アルトキハ其市町村又ハ郡若クハ府縣ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ修理スル等

一 一般ニ清潔法ヲ施行スルコト  
二 路傍便所及共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

第七條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、郡市町村吏員等及警察官吏衛生官吏等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ豫防消毒ノ事ヲ擔當セシムルヲ要ス

腸室扶私

腸室扶私ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ舍リ虎列刺病毒ノ如ク不潔汚穢ノ土地ニ蕃殖瀰漫シ廣ク流行ノ勢ヲ成スモノナレハ其豫防ノ方法ニ至テハ虎列刺ト畧ホ其趣ヲ同フス抑モ本病ハ六種傳染病中最モ多キ疾病ニシテ各地方年々其患者ヲ發生シ流行ノ兆ヲ見サルコトナシ明治十三年傳染病豫防規則發布以來十年間ノ患者三拾一万餘死亡七万餘ノ多キニ及ヒ加フルニ流行時期ノ長キ病症經過ノ久シキ以テ公衆ノ安全幸福ヲ損害スルニ至テハ却テ虎列刺ヨリ甚シキモノアラントス故ニ本病流行ノ兆アルニ當テハ速ニ十分ノ力ヲ尽シテ之ヲ撲滅シ併セテ第二ノ流行ヲ豫防セソコトニ怠ルナカラシムルヲ要ス

第一條 腸室扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置クコト
- 五 患者ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
- 六 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳五十分一ノ生石灰若ハ五分一ノ石炭酸水ヲ灌キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト
- 七 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器、其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ糞便ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之

八 取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト  
患者ノ身體糞便及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マラ

サル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ糞  
便ニ汚染セサル様注意スルコト

九 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ糞便ニ觸レサル様注意シ且ツ其糞  
便及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水

又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト  
患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス

煮沸セサレハ之ヲ用ヒサルコト  
第二條 腸窒扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ

豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組  
合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト  
二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得サルト

キハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト  
三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下

水溝ノ破損セルモノハ速ニ之ヲ改修スルコト  
四 飲食物ハ成ルヘク煮熟シテ之ヲ用フルコト

五 總テ熱性病ニ罹リ又ハ下利ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療  
ヲ受クルコト  
第三條 腸窒扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ

豫防法ヲ施行スルヲ要ス  
一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ改修スル等

一般ニ清潔法ヲ施行スルコト  
二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布ス

ルコト  
三 醫師ヲシテ官民部落ヲ巡診セシムルコト  
第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防

委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且其委員ヲシテ各家ニ豫防法  
ヲ諭示セシムルヲ要ス

赤痢 赤痢ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ舍リ之ヨリ傳染スルモノニ

シテ病性大ニ腸窒扶私ト類似スルモノナリ故ニ其豫防消毒ニ於  
テモ略ホ腸窒扶私ト同一ノ方法ニ據リ而シテ流行時ニ於テハ瀉

下物中ニ血液ヲ混セサル患者ト雖モ本病者ト同様ニ取扱フヲ要  
ス抑本病ハ腸窒扶私ト同シク頗ル慘毒ヲ逞クスルモノニシテ明

治十三年以來十年間ノ患者數殆ト二十萬ノ多キニ及ヒ殊ニ九州四國ノ諸縣ノ如キ八年一年ニ流行ノ勢ヲナシ病毒漸次ニ全國ニ浸淫セントス故ニ本病ノ年々發現スル地方ニ於テハ土地ノ清潔ヲ力メ殊ニ飲料水ニ注意シ下水ヲ浚渫シ發病時ニ當テハ撲滅ノ方法ニ十分ノ力ヲ尽シテ第二ノ流行ヲ防ク等總テ瞻望扶私ニ於ケルカ如クナランヲ要ス

#### 實布埜里亞

實布埜里亞(格魯布)ハ多クハ未成年者殊ニ幼童嬰兒ヲ侵シ其幼稚ナル者ハ症狀最モ險惡ナリ抑モ本病ノ病毒ハ咽喉頭ノ如キ部分ニ舍リテ患者ノ痰唾、鼻汁其他患者ノ使用セル衣服、玩具等ノ媒介ニ依リテ傳染ス故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ患者ト健康者殊ニ兒童トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ小學校、幼稚園等兒童ノ群集スル場所ハ往々本病傳播ノ中心トナルカ故ニ流行ノ兆アル場合ニ於テハ特ニ注意スルヲ緊要トス

第一條 實布埜里亞(格魯布)又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

一 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ヲキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間

ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト

二 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶テ殊ニ兒童ハ一切立入ラシメサルコト

三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト

四 看病人ハ他ノ兒童ト接近セサル様注意シ數々硼酸水又ハ鹽酸加里水等ヲ以テ含漱シ且ツ患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

五 患者ノ痰唾、鼻汁ヲ拭ヒタル紙片、布片等ハ蒸覆ヲ有スル容器ニ取纏メテ燒却スルコト又患者ノ含漱シタル藥水モ石炭酸小ヲ加ヘ消毒シタル後所定ノ便所ニ入ル、コト

六 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

七 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト

八 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ患者ノ痰唾、鼻汁ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑ア

九 ルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フ  
患者恢復ニ趣クモ醫師ニ於テ全治ト認メ且ツ消毒法ヲ行ハ  
サル間ハ他ノ兒童ト遊戯セシメサルコト

第二條 實布埤里亞(格魯布)發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共  
同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於  
テ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

- 一 患者アル家ニハ兒童ヲシテ交通セシメサルコト
- 二 兒童ヲシテ感冒ニ罹ラシメサル様注意スルコト
- 三 兒童ノ感冒ニ罹ル者アルトキハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムルコト

第三條 實布埤里亞(格魯布)患者頻々發生スルトキハ其市町村ニ  
於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

- 一 醫師ヲシテ小學校、幼稚園ニ就キ其兒童ヲ診察セシムルコト
- 二 小學校、幼稚園ノ教員ト協議シテ左ノ豫防法ヲ實行スルコト
- 一 患者アル家ノ兒童ハ其患者全治又ハ死亡シタル後又他家  
へ避ケタルトキハ其避ケタル日ヨリ三週間ヲ經ル迄登校  
入園ヲ禁スルコト
- 二 兒童中咳嗽或ハ發熱スル者アルトキハ速ニ退場セシメ且

三 ツ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘキ旨ヲ其家人ニ勸告スルコト  
生徒ノ缺席數日ニ及フモノアルトキハ其家ニ就テ缺席ノ  
理由ヲ問フコト

四 出頭時刻ヲ晚クシ退散時刻ヲ早クシ兒童ヲシテ朝暮寒冷  
ノ氣ニ觸レシメサルコト

五 唱歌其他高聲ヲ發スル課業ヲ禁スルコト

六 教場ハ一層清潔ニ掃除シ休息時間ニハ悉皆窓戸ヲ開放シ  
十分ニ空氣ヲ流通セシムルコト

七 教場内處々ニ適宜ノ瓶、壺等ヲ備ヘテ之ニ石炭酸水ヲ入  
レ置キ生徒ノ痰、唾ハ此器中ニ吐カシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防  
委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防  
法ヲ諭示セシメ又其病勢ニ依リテハ小學校、幼稚園ヲ閉鎖スル  
ヲ要ス

發疹室扶私

發疹室私ハ其病毒患者ノ身體ヨリ揮散シ傳染スルモノニシテ傳  
播ノ最モ迅疾ナルモノナリ其一タヒ流行ノ兆ヲ呈ハスヤ忽チ散  
漫傳播シ殊ニ貧民部落等群集雜居ノ場所ニ侵入スルトキハ其家

屋ノ不潔狹隘ニシテ空氣ノ流通不良ナルヨリ傳染ノ力モ一層猛劇トナリ全部ノ人衆ヲ侵害スルニ至ル故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ速ニ患者ト健康者トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ貧民部落ニ侵入セルトキハ避病院又ハ療養所ノ開設、貧民救療法ノ普及ヲ怠ルヘカラス

第一條 發疹室扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病人行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院若クハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 五 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移ス
- 六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他總テ患者ノ身

体ニ接觸セルモノ及ヒ看病人ノ衣服ハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

第二條 發疹室扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設アル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト
- 二 家屋ヲ清潔ニシ空氣ノ流通ニ注意スルコト
- 三 身体衣服ヲ清潔ニシ過度ノ勞力、露臥、夜行等身体ヲ衰弱セシムル事項ヲ慎ムコト
- 四 總テ熱性病ニ罹ル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條 發疹室扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

- 一 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト
- 二 患者アル家ニ近接セル各家ニ大掃除ヲ爲サシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

痘瘡

痘瘡ノ病毒ハ痘漿、痘痂中ニ含レルハ勿論患者ノ身体ヨリ發出  
スル蒸發氣中ニモ之ヲ含ミ傳染力ノ強烈ナル迄ニ他病ノ上ニ出  
ツ故ニ一枚ノ幣衣ヨリ病毒ヲ傳ヘテ遂ニ無數ノ人衆ヲ侵セルカ  
如キハ往々觀ル所ナリトス抑モ痘瘡ニハ種痘ノ如キ万全ノ豫防  
法アリテ能ク其患害ヲ未然ニ防制シ得ヘント雖モ再三之ヲ反復  
セサレハ其効全カラサルヲ以テ苟クモ本病發生スルトキハ健康  
者ニハ臨時種痘ヲ普及セシメ患者ニハ密ニ消毒法ヲ行ヒ二者相  
待テ十分ニ病毒ヲ撲滅センコトヲ要ス而シテ從來ノ經驗ニ據ル  
ニ保母、看病人タル者親シク患者ヲ介抱シ痘毒ニ汚染セラル、  
モ其手足、衣服等ニ十分ノ消毒法ヲ行ハサルヨリ病毒ヲ傳播セ  
シムルノ例甚タ多シ深ク戒ムヘキコト、ス

第一條 痘瘡又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ  
守ルヲ要ス

- 一 患者ノ外未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ  
經タル者ハ臨時ニ種痘ヲ爲ス
- 二 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシ  
メ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間  
ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告ス

- 三 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 四 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人  
ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケ  
シムルコト
- 五 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通  
ヲ良クスルコト
- 六 患者ノ居室ニハ蓋覆ヲ有スル壺等ヲ備ヘテ汚物ノ容器ト爲  
シ豫メ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒタル布片、紙片  
又ハ落痂及ヒ居室內ノ塵埃等ハ必ス此器中ニ入ル、  
但器中ノ汚物ハ藁、匏屑等ノ燃料ヲ加ヘ石炭油ヲ灌キテ  
之ヲ燒却スルコト
- 七 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水  
ヲ以テ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 八 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭  
酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
- 九 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサル  
コト



十 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人

ノ衣服其他總テ痘漿ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

十一 患者ノ身体及ヒ痘漿ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ聚マラサル様之ヲ防クコト

十二 患者ノ痘瘡落痂スルモ醫師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル後ニ非サレハ他ノ兒童ニ交ハリ又ハ混浴ノ風呂屋ニ入浴セシムヘカラス

第二條 痘瘡發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト  
二 未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘スルコト

三 痘瘡ニ疑ハシキ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト  
第三條 痘瘡患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ消毒ノ施行ニ一層ノ注意ヲ加ヘ且種痘規則第三條ニ依リ臨時ニ種痘ヲ普及セシムルヲ要ス

○消毒方

傳染病毒ハ其本体己ニ詳ナルアリ未タ詳ナラサルアリト雖モ要スルニ生々蕃殖ノ機能ヲ具ヘタル一種微細ノ有機体ナルハ疑ヲ容レズ此有機体タル各病孰レモ其性狀ヲ異ニシ傳染ノ景況一ナラス例ヘハ虎列刺病毒ノ如キハ專ラ患者ノ吐瀉物中ニ舍リテ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染シ發疹瘰癧扶私病毒ノ如キハ患者ノ身体及ヒ之ニ接觸セルモノ其他居室內ノ空氣ヨリ傳染シ痘瘡病毒ノ如キハ患者ノ身体、居室內ノ空氣ヨリ又ハ痘痂、痘漿及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染ス故ニ消毒法ノ實施ニ從事スル者ハ各病ノ病性ヲ知悉シ此心得書ニ據リテ火力、氣熱、藥劑等總テ消毒ノ効力ヲ有スルモノ、効用、用法ヲ領得シ決シテ疎漏ノコトナカラシムコトヲ要ス

第一 火力

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒燼スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死休及病毒ニ汚染スルコト甚クシテ貴重ナラサル品ハ成ルヘク燒却スヘシ

第二 氣熱 附 煮沸

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ熱氣ニ逢フトキハ枯死スルモノナリ  
故ニ消毒後使用スヘキ物品ハ成ルヘク熱氣消毒中ニ入レテ熱氣  
ノ内部ニ透徹シ易キ様適宜ニ之ヲ排列シ通常衣服ノ類ニ於テハ  
三十分時間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄攝氏百度  
以上ノ熱氣ヲ周チク通シテ消毒スヘシ

熱氣消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒鄉僻地ニ設クルヲ得サルモノ  
アリト雖モ要スルニ攝氏百度以上ノ熱氣ヲ以テ消毒スヘキ物品  
ヲ涵蒸スルヲ得ハ足レルカ故ニ簡易ノ裝置ニ依リテ同様ノ目的  
ヲ達センコトモ亦難キニアラス今其一法ヲ舉クレハ接合緊密ノ  
蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ孔ヲ穿テテ蒸氣ヲ導ク處ト爲  
シ之ヲ釜上ニ裝置シテ蒸氣ヲ通セシメ而シテ其蓋ニ一小孔ヲ穿  
テ寒暖計ヲ插入レ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムヘシ此裝置タル  
甚タ簡易ニシテ費用ヲ要スル少ナキカ故ニ如何ナル地方ニモ之  
ヲ設クルヲ得ヘク而シテ消毒ノ目的ハ十分ニ之ヲ達シ得ルモノ  
ナリトス

又熱湯中ニ煮沸スルモ濕熱消毒法ト其理ヲ同シフス故ニ市町村  
ニ於テハ煮沸ノ用ニ供スヘキ大釜ヲ備フルトキハ十分消毒ノ目  
的ヲ達シ得ヘシ但煮沸ハ三十分時間以上ヲ持續セサレハ消毒ノ

効全カラストス

第三 藥劑

甲 石炭酸水(二十倍)結晶石炭酸五分  
水九十五分

石炭酸水ハ各種ノ傳染病毒ヲ撲滅スルノ力アリテ効用甚タ廣シ  
ト雖モ其價格高貴ナルヲ以テ消毒費ヲ增多スルノ憂アリ故ニ成  
ルヘク他ノ消毒藥ニテ消毒ヲ爲シ難キモノ例ヘハ石灰乳ヲ用フレハ光澤ヲ損  
シ消毒水ヲ用フレハ危險ノ虞アル等  
其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ缺乏セル場合ニノミ使用スヘ  
シ

本品ハ結晶石炭酸ヲ以テ製スルヲ通例トス然レトモ場合ニ依リ  
粗製石炭酸ヲ以テ之ヲ製シ本品ニ代用スルモ可ナリ但粗製石炭  
酸水ハ消毒後斑點ヲ遺スノ虞アルヲ以テ構造精緻ノ家屋貴重ノ  
物品等ノ消毒ニハ使用スヘカラス

本品ヲ以テ消毒スルニハ左ノ件々ヲ守ラントトナ要ス

- 一 本品ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルニハ十二時間以上浸漬シ其後  
淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ
- 二 本品ヲ以テ器具、室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ後  
淨水ヲ以テ更ニ拭淨スヘシ
- 三 本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後

淨水ヲ以テ洗滌スヘシ

本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ水ヲ注キ全量二百分ニ至ラシムヘシ温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリ但衣類等ニ使用スルヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ更ニ鹽酸若クハ酒石酸四分ヲ加ヘ使用スルトキハ其効著シトス

乙 昇汞水(千倍)昇汞一分、鹽酸五分、水九百九十四分

昇汞水ハ價廉ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防カン爲メ本品百分ニ硫酸銅一分ヲ加ヘテ藍色ト爲スカ又ハ昇汞ノ効ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス

又本品ハ飲食器、玩具及ヒ飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒ニ用フヘカラス金屬若クハ糞便中ノ成分ニ逢フトキハ分解又ハ凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金屬製器、糞便及ヒ吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス又金屬製器ニ貯フヘカラス

本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルトキハ必ス淨水ヲ以テ數回洗滌スヘシ

甲乙兩種ノ消毒藥ニハ劇しき藥なり飲むヘカラスト票記スヘシ

丙 生石灰生石灰一分、石灰乳(十倍)水九分

生石灰及ヒ石灰乳ハ虎列刺、腸壁扶私等ノ病毒ヲ消滅スルノ効カアルモノナレハ吐瀉物、瀉下物、下水等ノ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ良シトス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐瀉物、瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レテ能ク攪拌スヘシ

生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シ崩壞スルモノヲ用フヘシ又石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取リ九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石灰乳ハ成ルヘク用ニ臨テ之ヲ製シ使用ノ際ハ毎回能ク攪拌スルヲ要ス

丁 格魯兒石灰水格魯兒石灰五分、水九十五分

格魯兒石灰水ハ便所、下水、芥溜、床、床下及ヒ土間等ノ消毒ヲ用フ

本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

戊 硫酸全量ノ水ニ溶解シタルモノ

硫酸若クハ粗製硫酸ハ石灰乳、石炭酸水等ノ代用品トシテ糞池、

下水等ノ消毒ニ用フルヲ得ヘシ但本品ハ強キ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之ヲ取扱フノ際能ク注意スヘシ

本品ヲ以テ糞池ヲ消毒スルニハ糞便ト全量ノ本品ヲ注テ攪拌スヘシ 本品ヲ糞池ニ入ルレハ糞便攪拌シテ溢流スルノ恐アルヲ以テ其糞便多量ナル場合ニハ其糞便分ヲ他器ニ分チテ各別ニ消毒スルヲ可トシ又本品ハ漆喰、金屈製器ヲ損傷スルノ恐アルヲ以テ糞池ノ周邊ニ又金屈製器ニ容ルヘカラス

本品ヲ製スルニハ五十分ノ水ヲ取り絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸若クハ粗製硫酸五十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス

第一 患者

傳染病者治癒シタルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直ニ浴ヲ取ラシムヘシ

第二 死體

傳染病者ノ死體ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ斂ムヘシ但成ルヘク火葬スルヲ良シトス

第三 看病人其他病家ノ家人等

看病人其他病家ニ汚染シタル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事シタル吏員、人夫等ハ手足ヲ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒スヘシ但看病人、吏員、人夫等ハ豫メ爪ヲ剪リ其間ニ汚垢ナキ様注意シ置クヘシ

第四 患者、死體等運搬器

患者、死體等ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、戸板ハ使用ノ都度周子ク昇汞水又ハ石炭酸水ヲ灌クヘシ

第五 便所、芥溜、下水等

虎列刺患者ノ吐瀉物、腸室扶私、赤痢患者ノ瀉下物ノ入りタル便所ノ糞池、大糞池、肥料溜等ニハ少ナクモ糞便ノ量十分一ノ石灰乳若クハ格魯兒石灰水此用量ハ最低度ヲ示シタルモノナレハ多クニ加フルハ固ヨリ妨ケナシヲ灌キテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ周子ク右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ但此消毒法ヲ施行シタル糞池、肥料溜等ノ糞便ニシテ爾後新タニ患者ノ吐瀉物又ハ瀉下物ヲ混入セサルトキハ一週間ノ後普通ノ糞便全樣ノ肥料ニ供スルモ妨ケナク又其便所ハ消毒後之ニ通フモ妨ナシ

虎列刺患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ吐瀉物ト共ニ表面ノ土ヲ掘リ取りテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ルヘクハ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル芥溜ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ撒布シタル後塵芥ヲ尽ク取除キ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ  
虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル下水溝ニハ生石灰、石灰乳若クハ格魯兒石灰水、ヲ灌テ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ灌テ疏通セシムヘシ

第六 衣服、器具、疊、敷物等

一 傳染病者ノ著用セル衣服及ヒ患者ノ用ニ供シタル臥具、蚊帳、飲食器、藥用器、玩具其他患者ノ居室内ニ在リタル諸器具ノ類  
一 看病人其他病毒ニ汚染セル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事セル吏員、人夫等ノ著用セル衣服及ヒ手巾、足袋、靴、草履等  
一 患者ノ居室内ニ用ヒタル疊、蓆、敷物等ニシテ消毒ヲ必要ト認メタルモノ  
右ノ内衣服、臥具、蚊帳等總テ織物、綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

(一) 熨熱 熨斗ニシテ物品ニ懸シ温度百度以上ノ熱熨

(二) 煮沸 熱湯中ニ三十分時間以上煮沸ス

(三) 石炭酸水浸漬 石炭酸水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗滌ス

(四) 昇汞水浸漬 昇汞水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗滌ス

陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ

(一) 石炭酸水拭淨 石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル後更ニ淨水ヲ以テ拭淨ス

(二) 乾布拭淨 乾布ヲ以テ拭淨シタル後更ニ淨水ヲ以テ拭淨ス

其他ハ濕熱、煮沸、石炭酸水、昇汞水等ノ浸漬ヲ用フ但昇汞水ハ金屬製器ニ用フヘカラス

木製器ニハ前二項ニ依リ行フヘシ但汚染甚レク且ツ高價ナラサル品ハ成ヘク燒却スルヲ良シトス

漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

革製品ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

疊、蓆、絨繆、段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル後日光大氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ但汚染甚シキモノ例之ハ患者ノ吐瀉物、糞下物ノ浸漬セルモノハ、消毒藥ヲ撒布シテ燒却スヘシ

第七 患者ノ居室

傳染病者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室内ノ疊、

敷物ヲ揚ケ此等敷物ノ消毒ハ前項ニ依ルヘシ室内各部床及ヒ床下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ燒却シ床及ヒ床下ニ吐瀉物滲漏セルトキハ石灰乳掃除後昇水又ハ石炭酸水ヲ以テ若クハ掃帚石炭水ヲ十分ニ撒挂スヘシ掃除後昇水又ハ石炭酸水ヲ以テ室内各部ヲ叮嚀ニ拭淨スヘシ

右ノ消毒法ヲ了レル後ハ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄家人ノ起臥ヲ爲サシメサルヲ可トス但雨天ノ日ニ於テハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

### 第八 瀉車

虎列刺患者アリタル瀉車ノ車室ハ先ツ吐瀉物ヲシテ汎ク散漫セシメサル爲メ石灰、石炭焚屑、灰、砂、鋸屑等ヲ撒布シ之ヲ取り除キテ燒却シ車内ノ消毒ハ前項患者居室ノ消毒法ニ準スヘシ但車室ニ附屬スル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

### 第九 船舶

傳染病者アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但其船舶ハ消毒法ヲ行フニ先テ人家及ヒ他ノ船舶ニ隔タリタル所ニ廻航セシムルヲ要ス

一 患者アリタル船室ハ先ツ室内ノ臥具、戸張、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依リテ消毒シ室内各部ヲ掃除シ次ニ昇水又ハ石炭酸水ヲ周テク室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ叮嚀ニ洗淨シ

爲シ得ヘキタケ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客ヲ入ルヘカラス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

一 患者アリタル室ノ外ト雖ヒ病毒汚染ノ疑アル場所及ヒ不潔ノ場所ハ水ヲ以テ洗淨スヘシ

虎列刺ニ於テハ前二項ノ他尙ホ左ノ方法ヲ行フヘシ

一 患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ十分ニ洗滌スヘシ

一 吐瀉物滲漏ノ虞アルトキハ消毒藥ヲ灌キ船底ニ滯留セル汚水ヲ排除シタル後水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ

一 船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗淨スヘシ

### ○参照

傳染病豫防規則

明治十三年七月布告第三十四號

### 總 則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布埤利亞、發疹窒扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルキハ地方長官ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スルモノハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村

戸長ニ通知スルヲ要ス戸長ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳(東京府下ハ府廳及ヒ警視本署)ニ届出スヘシ

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察署ヨリ戸長ニ通知スルモ妨ケナシ

地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及治愈死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スヘシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルハ其性状ヲ記シテ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

第四條 (削除)

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校、病院、製作所等ニ於テ傳染病者アルハ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹瘰癧、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルヲ得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師並ニ戸長ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外人ト交通ヲ絶タシムヘシ

但患者治愈死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサル間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

虎列刺病  
第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フコアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニ井泉、河流、水道及ヒ厠間、塵溜、下水、溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルトキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナルトキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得

此場合ニ於テ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病ヲ診斷スルトキハ總テ檢疫委員ニ届出ヘシ

但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルヲ得

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサル様遮斷シ得ヘキモノト見認ムルトキハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ

交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スコトヲ得

但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スコトヲ得

胸室扶私病

第十六條 胸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

寶布埤里亞病

第十八條 寶布埤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セムヘシ

發疹室扶私病

第十九條 發疹室扶私病者アルトキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フコトヲサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セムヘカラス其流行ノ際ハ第十二條ヲ適用スヘシ

罰則

第二十二條 醫師戶長此規則ニ違背シタル者ハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタル者ハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタル者ハ壹圓五十拾錢以内ノ科料ニ處ス

○參照

布告第四十七號 明治十五年八月

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則 明治十五年六月布告第三十一號

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ検査ヲ受ケ其配名セル時

可ノ証書ヲ得タル後ニ非シハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乘組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スコカラス

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ検査官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乘組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スコトヲ許ス可シ

但検査官ニ於テ必要ト認ムルトキハ其船舶ヲ四十八時間以内其指定スル場所ニ碇泊セシメ十分ノ消毒法ヲ施スコトヲ得

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ検査官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他検査官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハ若シ該病人ノ望アル所ニ其遺體ニ關シテ地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ検査官ハ其乗組人船客コハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸



ノ許可ヲ與ヘ其船艙及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナク消毒法ヲ施シ  
ル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸上スルノ許可ヲ與  
フ可ク

第四條 此規則ニ違背シタル者若シハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ  
之ヲ處分ス可ク

第五條 此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定ス可ク

### ○第二十二章 娼妓檢癪規則

縣令第六十五號 明治二十一年六月十二日

娼妓檢癪規則別紙ノ通相定ム

但明治十七年ハ本縣丙第三號檢癪規則廢止ス

(別紙)

#### 娼妓檢癪規則

第一條 娼妓ハ一週日毎ニ檢癪所ヘ檢査証票ヲ携帶出頭シテ癪毒  
有無ノ檢査ヲ受クヘシ

但檢査ノ日割ハ豫メ驅癪院ヨリ告示スヘシ

第二條 娼妓營業免許ノ鑑札ヲ受ケタル者ハ當日所轄檢癪所ヘ出  
頭シ檢査ヲ受クヘシ

第三條 檢査當日自己ノ疾病ニテ出頭シ難キハ貸席取締連署ノ  
届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ檢査時限前檢癪所ヘ届出ヘシ此場合

ニ於テハ醫師往檢スルモノトス

第四條 檢査定日ヲ超ヘテ免許地外ニ宿泊セントスルハ並ニ歸席  
(失踪)シタルハ當日所轄檢癪所ヘ出頭シ檢査ヲ受クヘシ

第五條 廢業セントスルハ驅癪院又ハ所轄檢癪所ヘ出頭シ檢査  
ヲ受クヘシ

第六條 檢査定日外ト雖モ癪毒ニ感染シタリト自覺スルトキハ臨  
時檢査ヲ受クヘシ

第七條 檢査當日ニハ警察官吏取締トシテ立會フヘシ

第八條 檢癪スルニ當テハ付添婦ヲ立會ハシムヘシ

第九條 檢査ノ上癪毒アリト認ムル者ハ松江ハ驅癪院ニ入院セシ  
メ其他ハ當分自宅加養ヲ許ス

但自宅加養ノ者ト雖モ檢癪所ニ出頭シ治療ヲ受クルモノトス  
其病症ニ因リ檢癪所ヘ出頭シ難キ者ハ自宅ニ就キ治療スヘシ

第十條 驅癪院ノ治療ヲ受クル者ハ藥價一劑金五錢以下ヲ徵收ス  
明治二十二年縣令  
第三十三號改正

第十一條 癪毒全治ノ上ハ驅癪院醫員ヨリ全治証ヲ受ケ貸席取締  
連署ノ上所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第十二條 檢癪所ハ免許地毎ニ一ヶ所ヲ設置ス

但便宜ニ依シリ甲乙合併設置スルコトアルヘシ 明治二十二年縣令第三十三號改正

第十三條 貸席取締ハ檢査當日檢廠所ニ出頭シ諸事不都合ナキ様取扱フヘシ 明治二十二年縣令第三十三號改正

第十四條 娼妓轉居其他異動アルキハ貸席取締ヨリ驅廠院又ハ檢廠所ヘ届出ヘシ

第十五條 此規則第一條第二條第三條第四條第十一條第十五條ニ違背シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス 明治二十一年縣令第百十號改正

第七類 風俗

第一章 劇場取締規則

縣令第八號 明治二十二年六月十日

劇場取締規則別紙ノ如ク相定ム (別紙)

劇場取締規則

第一條 劇場ヲ新設又ハ改造模様替セントスル時ハ其仕様書建物並場所ノ圖面及近傍ノ家主地主ノ承諾書 改修模様替ハ之ヲ要セス 等ヲ添ヘ借地ニ係ルトキハ所有主ト連署シ所轄警察署分署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ 明治二十五年縣令第六十五號改正

第二條 劇場ノ構造ハ左ノ諸項ニ遵フヘシ

一 空氣ノ流通ヲ能スル爲メ各所ニ窓ヲ設クル事

二 通常出入口ノ外ニケ所以上ノ非常口 幅六尺以上ノモノヲ設クル事

但扉ハ外開キニスル事

三 二階樓敷ハ通常昇降用ノ外ニケ所以上ノ非常梯子 幅三尺以上ニシテ裏板ヲ付シタルモノヲ設クル事

四 便所ハ劇場ヲ隔離シ臭氣ノ客席ニ及ハサル所ニ設ケ空氣ノ流通ヲ能クシ尿管溜ハ石材又ハ陶器 素燒ニアラサモヲ以テ各別ニシ其周圍ハ石敷(タ、キ)等ヲ爲ス事

五 便所ノ數ハ概テ客席二十坪 四六尺ニ付小便所一ヶ所全四十坪 全ニ付大便所一ヶ所トスル事

六 場内見透シ易キ位置ニ警察官吏ノ臨監席ヲ設クル事

第三條 劇場ノ工事落成シタル時ハ所轄警察署又ハ分署ノ檢査ヲ受クヘシ

第四條 劇場ヲ買受ケ又ハ讓受ケタルモノハ元所有主ト連署シ所轄警察署分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ 明治二十五年縣令第六十五號改正

廢場シタルトキ亦前項ニ準シ届出ヘシ 明治二十五年縣令第六十五號改正

第五條 劇場ヲ假設セントスル者ハ興行届書ニ現場ノ圖面ヲ添ヘ

借家借地ニ係ル時ハ所有主ト連署スヘシ明治二十五年縣令第六十五號改正  
第六條 假設ノ劇場ト雖モ成ルヘク其構造ヲ堅固ニシテ空氣ノ流通ヲ能シ且第二條第二項第五項第六項ニ遵フヘシ

第七條 興行ヲ爲サントスル者ハ其場所日數藝題始業ノ時刻及族籍住所氏名等ヲ詳記シ藝人ノ族籍住所氏名藝名年齡書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ明治二十五年縣令第六十五號改正

但新作ノ演劇ニ係ルトキハ其仕組書ヲ出スヘシ  
第八條 藝題ヲ變更セントスル中ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ明治二十六年縣令第六十五號改正

但新作ノ演劇ニ係ルトキハ其仕組書ヲ添フヘシ明治二十六年縣令第六十五號改正  
第九條 左ノ場合ニ於テハ速ニ所轄警察署分署又ハ駐在巡查ノ中ニ届出ヘシ明治二十六年縣令第六十五號改正

一 興行日數ヲ増減シ若クハ其日限ヲ伸縮シ又ハ臨時興行ヲ中止スル時明治二十六年縣令第六十五號改正

二 藝人ヲ増減スル時但増減スル時ハ其藝人ノ族籍住所氏名年齡書ヲ添フヘシ明治二十六年縣令第六十五號改正

第十條 (明治二十五年縣令第六十五號削除)

第十一條 興行ハ日出ヨリ午後十二時マテニ限ルヘシ但夜間興行中ハ出入口ニ掲燈スヘシ

第十二條 木戸錢機敷料等ハ來客ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第十三條 藝人ヲ客席ニ至ラシメ又ハ觀客ヲ藝人ノ休憩所ニ入ラシムヘカラス

第十四條 演劇ハ勸善懲惡ノ趣意ヲ失シ又ハ風俗ニ害アル所爲ニ涉ルヘカラス且看客ノ座席ヲ暗黒ニスルコトアルヘカラス

第十五條 烈風ノ時ハ勿論平常ト雖モ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ

第十六條 興行中ハ客席便所等ヲ清潔ニ掃除シ且便所ニハ時々防臭劑ヲ散布スヘシ

第十七條 神佛祭典其他賑ヒノ爲メ木戸錢見料等ヲ受ケスシテ興行ヲ爲サントスル者ハ届出ニ及ハスト雖第十四條第十五條ニ遵フヘシ明治二十五年縣令第六十五號改正

第十八條 第一條第三條第四條第一項第七條第八條第九條第十三條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十八條第五項ニ依リ處分セラレ

第十四條ヲ犯シタルトキハ興行ヲ停止スルコトアルヘシ明治廿五年縣令第六十五號改正

附 則

松江市ニ於テ劇場ヲ設クルハ白濁天満宮境内並其接續地境内ノ休場ヲ爲ス區内及字伊勢宮ニ限ルヘシ但該地ニ於テハ假設ヲ許サス明治二十五年縣令第六十五號改正

○第二章 人寄席取締規則

縣令第八十三號

明治二十二年六月十日

明治十八年三月第六十八號布達人寄席取締規則別紙ノ如ク改正ス  
(別紙)

人寄席取締規則

第一條 人寄席ハ軍談、講釋、落語、淨瑠璃、音曲、祭文、浮レ節、物  
眞似、手品、人形遣、猿狂言、其他之ニ類スル遊藝ヲ興行スル所ト  
ス

第二條 寄席ヲ新設又ハ改造模様替セントスルトキハ其仕様書建  
物並場所ノ圖面及近傍ノ家主地主ノ承諾書改換模様替ハ  
之ヲ要セス等ヲ添ヘ借  
地ニ係ル時ハ所有主ト連署シ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ  
受クヘシ明治二十五年縣令  
第五十六號改正

第三條 寄席ノ構造ハ左ノ諸項ニ遵フヘシ

- 一 空氣ノ流通ヲ能スル爲メ各所ニ窓ヲ設クル事
- 二 通常出入口ノ外一ヶ所以上ノ非常口ヲ設クル事
- 三 便所ハ臭氣ノ客席ニ及ハサル所ニ設ケ空氣ノ流通ヲ能シ尿  
尿留ハ石材又ハ陶器素焼ニアラ  
サレモノヲ以テ各別ニシテ其周圍ハ石敷  
(タ、キ)等ヲ爲ス事

四 便所ノ數ハ概テ客席二十坪坪一坪六尺ニ付小便所一ヶ所全四十  
坪坪一坪一尺六寸ニ付大便所一ヶ所トスル事

第四條 寄席ノ工事落成シタル時ハ所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ  
受クヘシ

第五條 寄席ヲ買受ケ又ハ讓受ケタルモノハ元所有主ト連署シ所  
轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ明治二十五年縣令  
第五十六號改正

第六條 臨時假席ヲ設ケ又ハ他ノ家屋ヲ假用セントスル時ハ興行  
届書ニ現場ノ圖面ヲ添ヘ借家借地ニ係ル時ハ所有主ト連署スヘ  
シ明治二十五年縣令  
第五十六號改正

第七條 假席ト雖モ成ルヘク其構造ヲ堅固ニシ且人家ヲ用ユルト  
假席トニ拘ハラズ空氣ノ流通及非常出入等ニ便ナラシムル様注  
意スヘシ

第八條 警察官吏ノ指揮アルトキハ場内見透シ易キ位置ニ其臨監  
席ヲ設クヘシ

第九條 興行ヲ爲サントスル者ハ其場所日數種目始業ノ時刻及族  
籍住所氏名等ヲ詳記シ藝人ノ族籍住所氏名藝名年齡書ヲ添ヘ所  
轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ但定席ニ於テスル興行

ハ其時々本條ノ事項ヲ届出ヘシ明治二十五年縣令第五十六號改正

第十條 興行日數ヲ伸縮スル時ハ速ニ所轄警察署分署又ハ駐在巡查ノ中ニ届出ヘシ明治二十五年縣令第五十六號改正

第十一條 (明治二十五年縣令第五十六號削除)

第十二條 興行ハ日出ヨリ午后十二時マテニ限ルヘシ但夜間興行中ハ出入口ニ掲燈スヘシ

第十三條 木戸錢席料等ハ來客ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第十四條 藝人ヲ客席ニ至ラシメ又ハ客ヲシテ藝人ノ休憩所ニ入ラシムヘカラス

第十五條 寄席興行ハ演劇ニ類似ノ所作ヲナシ又ハ勸善懲惡ノ趣意ヲ失シ若クハ風俗ニ害アル所爲ニ涉ルヘカラス且客席ヲ暗黒ニスルコトアルヘカラス

第十六條 烈風ノ時ハ勿論平常ト雖モ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ

第十七條 興行中ハ客席便所等清潔ニ掃除シ且便所ニハ時々防臭劑ヲ散布スヘシ

第十八條 神佛祭典其他賑ヒノ爲木戸錢席料等ヲ受ケス興行セントスル者ハ届出ニ及ハスト雖第十五條第十六條ニ遵フヘシ明治二十五年縣令第五十六號改正

第十九條 第二條第四條第五條第一項第九條第十條第十四條ヲ犯シタル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處シ第十五條ヲ犯シタル時ハ興行ヲ停止スルコトアルヘシ明治二十五年縣令第五十六號改正

第三章 遊技場取締規則

縣令第八十二號 明治二十二年六月十日

遊技場取締規則別紙ノ如ク相定ム

(別紙)

遊技場取締規則

第一條 遊技場トハ營業ノ爲メ玉突、室内射的、大弓、半弓、揚弓、投扇競、鞠投、人形倒シ、吹矢其他之ニ類スルモノヲ以テ遊戲ニ供スル場所ヲ云フ明治二十五年縣令第五十四號改正

第二條 第一條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名及開設ノ場所遊技ノ種類等ヲ詳記シ射的大弓半弓等ハ現場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受ケ其他ハ開業前全署ニ届出ヘシ神佛祭禮其他群集ノ場所ヘ轉輾シテ時々開場スル者亦同シ明治二十五年縣令第五十四號改正

第三條 轉住改氏名其他身分上異動アルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署駐在巡查ノ中ニ届出ヘシ明治二十五年縣令第五十四號全二十六號縣令第十二號改正

廢業スルトキ亦前項ノ手續ヲナスヘシ明治二十五年縣令第五十四號改正

第四條 白痴瘋癲及酩酊人等ニ遊技ヲ爲サシムヘカラス

第五條 射的大弓半弓ノ開場ハ日出ヨリ日没マテ其他ハ午後十二時マテニ限ルヘシ

第六條 席料並遊技ノ代料ハ店頭ニ揭示スヘシ

第七條 風俗ヲ害スル所爲又ハ危險ノ虞アリト認ムルモノハ之ヲ停止スルコトアルヘシ

第八條 警察官吏ニ於テ營業承認ノ証ヲ檢查スルコトアルトキハ何時タリトモ之ヲ示スヘシ

第九條 第二條第三條第一項ヲ犯シタル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ料料ニ處ス明治二十五年縣令第五十四號改正

○第四章 觀物場遊覽所

縣令第八十一號 明治二十二年六月十日

觀物場並遊覽所取締規則別紙ノ如ク相定ム(別紙)

觀物場並遊覽所取締規則

第一條 觀物場ハ相撲、足藝、輕業、手踊、獨樂廻、曲馬其他之ニ類スル遊藝ヲ興行シ遊覽所ハ天產物又ハ人造ノ物品ヲ陳列シテ觀覽ニ供スル所トス明治二十二年縣令第五十五號但書削除

第二條 觀物興行ヲ爲サントスル者ハ其場所日數種目始業ノ時刻及族籍住所氏名ヲ詳記シ借家借地ニ係ル時ハ所有主ト連署シ藝人ノ族籍住所氏名藝名年齢書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ明治二十五年縣令第五十五號改正

第三條 遊覽所ヲ開設セントスル者ハ其場所日數種目及族籍住所氏名ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ但借屋借地ニ係ルトキハ所有主ト連署スヘシ明治二十五年縣令第五十五號改正

第四條 興行日數ヲ伸縮スル時ハ速ニ所轄警察署分署又ハ駐在巡查ノ中ニ届出ツヘシ

第五條 小屋掛ケ又ハ機敷ヲ要スルトキハ成ルヘク堅固ニ構造シ便宜非常口ヲ設クヘシ

第六條 場内ハ空氣ノ流通ヲ能シ清潔ニ掃除スヘシ

第七條 警察官吏ノ指揮アルトキハ相當ノ位置ニ其臨臨席ヲ設クヘシ但相撲興行場ニハ豫メ之ヲ設クルヲ要ス

第八條 興行ハ日出ヨリ午後十二時相撲ハ日没マテニ限ルヘシ但夜間興行中ハ出入口ニ掲燈スヘシ

第九條 木戸錢見料等ハ來客ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第十條 (明治廿五年縣令第五十五號削除)

第十一條 人造物ヲ天造物ト稱シ又ハ看板ト實物トヲ異ニシ其他事實ニ相違シタルコトヲ揚言スヘカラス

第十二條 風俗ヲ害スヘキモノヲ觀覽ニ供スヘカラス

第十三條 獐猛ナル鳥獸ヲ觀覽ニ供シ又之ニ演藝セシムル時ハ危險ノ虞ナキ様注意スヘシ

第十四條 烈風ノ時ハ勿論平常ト雖モ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ

第十五條 伊勢神樂、猿廻シ、居合拔、硯見鏡ノ類ニシテ場所ヲ定メス與行スルモノハ届出ニ及ハスト雖モ道路ニ於テ通行ノ妨ケ

ヲ爲シ又ハ人家ニ立入り強テ金錢ヲ乞フヘカラス明治廿五年縣令第五十五號改正

第十六條 神佛祭典其他賑ヒノ爲メ木戸錢見料等ヲ受ケスシテ興行ヲ爲サントスル者ハ届出ニ及ハスト雖モ第十二條乃至第十四條ニ遵フヘシ明治廿五年縣令第五十五號改正

第十七條 第二條第三條第四條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十八條第五項ニ依リ處分セラレ第十一條第十二條ヲ犯シタルトキハ興行ヲ停止スルコトアルヘシ明治廿五年縣令第五十五號改正

附 則

松江市ニ於テ觀物場ヲ開設スルハ白濁天満宮境内並其接續地境内ノ

訓令警第四十七號 明治二十二年十一月二十七日 警察署 分署

觀物興行ヲ爲ス者ノ中禽獸蛇蝎ノ類ヲ生存ノ儘斷截シ又ハ之ヲ噬シ其他殘酷ノ處業ヲ爲シ衆庶ノ觀覽ニ供スルハ風俗上最モ厭忌スヘキ儀ニ付自今右等ノ技ヲ演セントスルモノ有之節ハ嚴ニ制禁スヘシ

○第五章 藝妓營業取締規則

縣令第八十五號 明治二十二年六月十日

明治十六年三月甲第三十號布達藝妓營業取締規則別紙ノ如ク改正ス

(別紙)

藝妓營業取締規則

第一條 藝妓トハ廣ク招聘ニ應スルト一ノ料理屋又ハ飲食店ニ於テスルトヲ問ハス宴席ニ陪シ歌舞音曲ノ業ヲ營ム婦女ヲ云フ

第二條 藝妓營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名藝名年齢ヲ詳記シ最近ノ親戚娼妓ヨリ兼業セントスル者ハ長席取締人ト連署シ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條 轉住改氏名其他身分上異動アル時及廢業スル時ハ速ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出可シ但甲署所轄地ノ者乙署所轄地ニ轉住シタル時ハ兩署ニ届出ヘシ

第四條 藝妓ハ貸席ニ住居シ及其居宅ニ於テ營業スルコトヲ得ス但娼妓ヨリ兼業スル者ハ此限ニアラス

第五條 甲署所轄地ノ者ニ泊以上乙署所轄地ニ赴クトキハ其行先地及往復日數ヲ甲署ニ届出ヘシ

第六條 警察官吏ニ於テ營業承認ノ証ヲ檢査スルコトアル時ハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第七條 第二條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ青圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

從來ノ營業者ハ本則第二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス但所持ノ鑑札ハ速ニ所轄警察署ニ返納スヘシ

○第六章 貸席娼妓

縣令第四十四號 明治廿一年四月十八日

貸席及娼妓營業取締規則別紙ノ通相定ム

但明治十六年甲第百六號布達娼妓及貸席渡世取締規則ハ廢止ス

(別紙)

貸席及娼妓營業取締規則

第一章 總 則

第一條 貸席營業ハ左ノ免許地内娼妓營業ハ其貸席内ニ於テスヘシ但娼妓ハ免許地ニ接スル港灣ノ船舶ニ赴キ營業スルハ此限ニアラス

免許地

出雲國 松江分字伊勢宮

全 國 安來町

全 國 三保關

全 國 杵築舊越前市場ノ内  
從前移來ノ地

石見國 温泉津

全 國 濱田片庭町ノ内字柯子町  
原井村ノ内字原井田

隱岐國 西郷市街

第二條 貸席又ハ娼妓營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ

第三條 貸席願書書式第一號ニハ客席圖面及保証人二名以上ノ保証書書式第二號ヲ添フヘシ



娼妓願書<sup>書式第三號</sup>ニハ事情ヲ詳記シ親戚<sup>親戚ヲキト</sup>連署本籍官署ノ副書  
及保証人二名以上ノ保証書<sup>書式第四號</sup>ヲ添フヘシ

第四條 廢業死亡逃走シタルトキハ直ニ所轄警察署又ハ分署ニ届  
出鑑札ヲ返納スヘシ但娼妓死亡逃走ノトキハ貸席主ヨリ届出ヘ  
シ<sup>明治三十一年縣令  
第五十四號改正</sup>

第五條 鑑札ヲ忘失毀損シ其他鑑札面ニ異動ヲ生シタルハ所轄  
警察署又ハ分署ニ届出鑑札書換又ハ再渡ヲ請フヘシ  
營業ノ等級ヲ改メタルハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ<sup>明治三十  
二年  
縣令第六  
六號改正</sup>

第六條 甲警察署所轄内ヨリ乙警察署所轄内ノ免許地ニ轉居スル  
ハ甲署ノ添書ヲ受ケ乙署ニ届出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第七條 本則ニ關スル願届書ハ取締人連署シ且娼妓營業ニ關シテ  
ハ貸席主連署スヘシ

### 第二章 貸 席

第八條 貸席營業者ニ於テ娼妓ヲ寄寓セシムルハ親戚<sup>親戚ヲキト</sup>連  
署ノ契約書ニ取締人ノ奥印ヲ受ケ置クヘシ

第九條 揚代金其他飲食料等ノ抵償トシテ私擅ニ客ノ所有品ヲ押  
收又ハ受領スヘカラス

第十條 故ナク娼妓ヲ免許地外ニ出スヘカラス止ムヲ得ス一泊以  
上他行スルハ取締人ノ承認書ヲ得之ヲ携帯セシムヘシ但此場  
合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出テシムヘシ

第十一條 營業者ハ看板ヲ店頭ニ掲ケ夜間ハ標燈ヲ以テ之ニ代フ  
ヘシ

第十二條 客ノ需メニアラサル酒饌ヲ出シ又ハ之ヲ強ユヘカラス

第十三條 浴室便所及臥具等ハ常ニ清潔ニスヘシ

第十四條 娼妓揚代金ハ同業者協議ノ上之ヲ定メ所轄警察署又ハ  
分署ニ届出ヘシ

第十五條 婦女ヲ傭使スルハ其族籍氏名年齢ヲ記シ傭入レノ日  
<sup>通勤又ハ日傭ニ限ル  
モノハ其約束ノ日</sup>ヨリ三日以内所轄警察署又ハ分署ニ届出解傭シタ  
ル時ハ其旨同署ニ届出ヘシ

第十六條 遊客ニ面會ヲ求ムル者アルハ拒絶スヘカラス

第十七條 癩毒感染中ノ娼妓ヲシテ客ニ接セシムヘカラス

第十八條 遊興ヲ勸ムル目的ヲ以テ廣告等ヲ爲スヘカラス

### 第三章 娼 妓

第十九條 娼妓ハ貸席ニ寄寓スヘシ

第二十條 娼妓ハ年齢滿十六年以上ノモノニ限ルヘシ二十年未滿

ノ者ハ營業期限ヲ滿三年以下トス其期限ノ滿ナタルモノハ貸席主トノ契約如何ニ拘ハラズ鑑札返納スヘシ但寓所ヲ轉換スルモ前後通算シテ本條ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス明治二十二年勅令第五十五號改正

第二十一條 故ナク免許地外ニ出ヘカラス止ムヲ得ス一泊以上他行スルキハ取締人ノ承認書ヲ携帯スヘシ但此場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第二十二條 甲地ヨリ一時乙地ニ出稼セントスルキハ甲地取締人ノ承認書ヲ得申乙所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第二十三條 別ニ定ムル規則ニ從ヒ癩毒有無ノ検査ヲ受クヘシ

第二十四條 病ニ罹リ貸席内ニ於テ治療シ難キ者ハ其事由並行先地ヲ記シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ届出歸籍シタルキハ其旨届出ヘシ

第二十五條 疾病其他ノ事故ニ依リ定期ノ癩毒検査ヲ受ケサル者ハ更ニ検査ヲ經サレハ就業スルヲ得ス

第二十六條 廢業スルキハ癩毒有無ノ検査ヲ受ケ廢業届書ニ無毒ノ証書ヲ添フヘシ

第二十七條 貸席主ニ於テ正當ノ理由ナクシテ轉寓廢業ヲ拒ミ其他非理ノ取扱ヲナスキハ警察官吏ニ訴出ルヲ得

第二十八條 娼妓ニシテ藝妓ヲ兼ヌルモノハ其營業ハ貸席内ニ限ルヘシ

#### 第四章 取締人

第二十九條 貸席及娼妓營業者ハ免許地毎ニ取締人一名若クハ二名ヲ選定シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ但警察署又ハ分署ニ於テ不適當ト認ムルキハ改選セシムルコトアルヘシ

第三十條 取締人ハ貸席營業者ニシテ丁年以上ノ男戸主ニ限ルヘシ

第三十一條 取締人ハ貸席及娼妓ノ名簿ヲ製シ族籍寄留地氏名年齢起業ノ年月日等ヲ詳記シ異動アルキハ訂正スヘシ

第三十二條 營業上ニ關スル諸達ハ貸席及娼妓ニ回付シ心得違ナキ様注意スヘシ

第三十三條 本則ニ關スル願届書ニハ取締人連署スヘシ其連署ヲナス場合ニ於テハ事實ヲ取調ヘ不都合ト認ムルコトアルキハ其旨ヲ副申スヘシ

第三十四條 取締人ノ給料諸費及年期ハ貸席及娼妓營業者ニ於テ取極メ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第三十五條 娼妓出稼ヲナシ又ハ止ムヲ得サル事故アリテ免許地

外ニ宿泊ヲ要スルモノアルハ承認書ヲ付與スヘシ  
第三十六條 給料諸費ハ毎月貸席及娼妓人員ニ割賦徴收シ其計算  
ヲ報告スヘシ

第五章

罰

則 明治二十二年  
令第六號改正

第三十七條 第一條第二條第四條第五條第六條第九條第十條第十  
五條第十六條第十七條第二十一條第二十二條第二十四條第二十  
五條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科  
料ニ處ス 明治二十二年  
令第九號令  
二十二年令第六號改正

附則

松江和田見町ニ於テ目下貸席娼妓營業中ノ者ハ來ル明治二十三  
年中全地ニ於テ營業スルコトヲ許ス但今後家宅ヲ改造シ及一旦  
廢業ノ上更ニ起業スルモノハ此限ニアラス  
(書式第一號)

貸席營業願

私儀

貸席及娼妓營業取締規則ヲ遵守シ何郡何村何番地ニ於テ何等貸  
席營業仕度候間御許可被成下度依テ客室圖面及保証人保証書相  
添此段奉願候也

年月日

原籍(寄留地)身分

何ノ誰印

年 齡

何地貸席取締人

何ノ誰印

何警察署長官氏名殿

又ハ

何警察署何分署長官氏名殿

(書式第二號)

保証書

何ノ誰

右之者何村ニ於テ貸席營業出願致候ニ付御許可ノ上本人ニ於テ若シ  
賦金並ニ(貸席ハ檢査費用等トシ娼妓ハ  
檢査治療藥費等トス)怠納スル時ハ私共ヨリ上納可仕此段保  
証仕候也

原籍身分

年月日

何ノ誰印

全

何ノ誰印

何警察署長官氏名殿

又ハ

何警察署何分署長官氏名殿

(書式第三號)

娼妓營業願

私儀

何々ノ事情ニ依リ何郡何村何番地居住貸席營業何某方ヘ<sup>同居又ハ寄留</sup>シ貸席及娼妓營業取締規則ヲ遵守シ何年何月ヨリ何年何月マテ何年間何等娼妓營業仕度候間御許可被成下度依テ本籍官署ノ副書及保証人保証書相添ヘ此段奉願候也

原籍(寄留地)身分

年月日

願人

何

誰

印

年 齡

原籍身分

右何誰父母叔父叔母伯父伯母

兄弟又ハ故舊

何

誰

印

右寄留貸席主

何地貸席取締人

何

誰

印

何

誰

印

何警察署長官氏名殿

又ハ

何警察署何分署長官氏名殿

(看板及標燈離形畧ス)

島根縣令第二十一號

明治二十四年二月十六日

明治二十二年<sup>ニ</sup>縣令第七號貸席娼妓賦金賦課徵收規則別冊ノ通

更正明治二十四年度ヨリ施行ス

(別冊)

貸席娼妓賦金賦課徵收規則

第一章 賦課徵收

第一條 貸席及娼妓營業者ハ左ノ等級ニ依リ賦金ヲ課ス

一等地 松江市及安來町免許地

貸席

一等 客室八間以上

二等 全五間以上

賦金月額三圓五拾錢

全貳圓五拾錢

三等 全四間以下 全壹圓四拾錢

娼妓 一等 一夜揚代金壹圓五拾錢以上 賦金月額三圓

二等 全壹圓十錢以上 全貳圓五拾錢

三等 全壹圓十錢未滿 全貳圓

四等 全八十錢以上 全壹圓四拾錢

五等 全五十錢以上 全壹圓

六等 全三十錢以上 全七拾錢

二等地 全金三十五錢未滿 一等地外ノ免許地

貸席 一等 客室八間以上 賦金月額貳圓

二等 全五間以上 全壹圓四拾錢

三等 全四間 全壹圓

四等 全三間以下 全七拾錢

娼妓 一等 一夜揚代金壹圓以上 賦金月額貳圓

二等 全壹圓十錢以上 全壹圓四拾錢

三等 全壹圓十錢未滿 全壹圓

四等 全六十錢以上 全六拾錢

五等 全金貳拾五錢未滿 全三拾錢

第二條 本則ニ於テ一夜揚代金ト稱スルモノハ名義ノ如何ニ拘ハ

ラス同一ノ客ヨリ收得セントスル物金額ヲ云フ

第三條 貸席及娼妓十五日以前ニ於テ廢業シ又ハ十六日以後ニ於

テ起業スル者ハ其月ニ於ケル賦金ノ月額ヲ半減ス

第四條 貸席及娼妓營業ノ等級ヲ變更シタルトキ賦金ハ其變更十

五日以前ナレハ新等ニ十六日以後ナレハ舊等ニ依ル

第五條 娼妓病ニ罹リ全月休業セントキハ其月ノ賦金ヲ免除ス

其休業全月ニ滿タサルトキハ第三條ノ例ニ依ル

第六條 娼妓逃亡失踪シタルトキ其月ノ賦金ハ第三條ノ例ニ依ル

第七條 貸席娼妓他ノ免許地へ轉住シタルキ其賦金ハ第四條ニ依

ル 但轉住後其月ヲ異ニシ開業スルモノハ第三條ノ例ニ依ル

第八條 娼妓他ノ免許地へ出稼ヲナスモ其賦金ハ仍ホ本免許地ニ

於テ納ムヘシ

第九條 貸席及娼妓賦金ノ納期ハ毎月二十五日限トス

納期前ニ於テ廢業シ又ハ納期後ニ於テ起業スル者ハ隨時其賦金

ヲ納ムヘシ

第十條 貸席及娼妓ニシテ規則違反ノ爲メ處罰セラレタル者賦金ノ遁脱アルトキハ一時ニ其全額ヲ追徴ス

第十一條 貸席及娼妓賦金ハ島司郡長ヨリ町村長戸長ニ其地營業者ノ總納額ヲ告知シ町村長戸長ハ更ニ之ヲ各營業者ニ其納額ヲ告知シテ納付セシム

市長ハ直ニ各營業者ニ其納額ヲ告知シテ納付セシム  
第二章 屈

第十二條 貸席若クハ娼妓ノ營業免許ヲ受ケタルトキハ其賦金賦課ノ標準ヲ記載シ三日以内ニ島司郡長市長ニ届出ツヘシ

賦金賦課ノ標準ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十三條 娼妓病ニ罹リ休業シ賦金納額ニ異動ヲ生スルトキハ醫師診斷書ヲ添ヘ島司郡長市長ニ届出ツヘシ

第十四條 前二條ノ届書ニシテ島司郡長ニ差出スモノハ町村長戸長ヲ經由スルヲ要ス  
第三章 罰 則

第十五條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十六條 貸席及娼妓賦金ヲ怠納シタルトキハ營業ヲ停止ス

但怠納金ヲ完納シタルトキハ解停ス

第八類 安 寧

○第一章 銃 砲

縣令第七十八號 明治二十三年十一月十五日

銃砲ニ關スル願届手續別紙之通定ム

(別紙)

銃砲ニ關スル願届手續

第一條 銃砲賣買免許商人以下免許商人トシテ他ノ免許商人又ハ免許商人ニ非サル者ヨリ軍用銃ヲ買入レントスルトキハ願出免手形ヲ受クヘシ但免許商人ニ非サル者ヨリ買入ルハトキハ賣主ト連署スヘシ

第二條 免許商人ニ非サル者免許商人ヨリ軍用銃ヲ買入レントスルトキハ願出免手形ヲ受ケ之ヲ買入レタルトキハ更ニ届出ヘシ

第三條 免許商人ニ非サル者相互ノ間ニ於テ軍用銃ヲ讓渡サントスルトキハ讓受人(他府縣居住ノ者ヨリ讓受ケントスルトキハ讓渡人)ト連署シテ願出許可ヲ受クヘシ

第四條 軍用銃ヲ廢棄獻納又ハ社寺ニ寄附セントスルトキハ檢印ノ削除ヲ願出ヘシ

第五條 軍用銃ヲ免許銃ニ改造セントスルトキハ願出許可ヲ受ケ之ヲ改造シタルトキハ更ニ現銃ノ檢査ヲ受クヘシ

第六條 免許銃ヲ賣渡讓渡シタルトキハ買受人又ハ讓受人(他府縣居住ノモノヨリ買受讓受ケタルトキハ賣渡人又ハ讓渡人)ト連署シテ届出ヘシ但連署スヘキモノ、證明書ヲ以テ連署ニ代ユルコトヲ得

第七條 家督相續又ハ遺産相續ニ依リ銃砲軍用銃免許銃ヲ併テ讓受ケタルトキハ届出ヘシ

第八條 銃砲ヲ所有スルモノハ左ノ場合ニ於テハ届出ヘシ  
但第六第七ノ届出ヲナストキハ現銃ヲ添フヘシ

一 銃砲ヲ遺失紛失シ又ハ沒收盜取セワレ若ハ水火災等ニ依リ亡失シタルトキ及之ヲ發見シタルトキ

二 姓名ノ變更アリタルトキ

三 銃砲ヲ携帯シテ轉籍出寄留寄留替又ハ復歸スルトキ

四 銃砲ヲ携帯シテ他府縣ヨリ入籍寄留又ハ復歸シタルトキ

五 免許銃ヲ獻納セントスルトキ

六 免許銃ヲ廢棄又ハ社寺ニ寄附セントスル中

七 免許銃ノ玉目又ハ彈器等ノ種類ヲ變更シタルトキ

第九條 銃砲取締規則第三則ニ依リ免許商人ヨリ差出スヘキ銃砲賣買高届書ハ別紙様式ニ依ルヘシ

第十條 取締規則第七則ニ依リ銃砲ノ試製ヲ願出ルモノハ銃砲ノ圖式及其解説書ヲ添ヘ縣廳ニ差出スヘシ

第十一條 獵銃製造營業又ハ軍用銃修復營業ヲナサントスルモノハ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第十二條 獵銃製造人獵銃ヲ新造シタルトキハ届出現銃ノ檢査ヲ受クヘシ

第十三條 前數條ノ願届中縣廳ニ差出スヘキモノ、外ハ總テ所轄警察署ニ差出スヘシ但縣廳ニ差出スモノハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

第十四條 前數條ノ願届中軍用銃ニ關スルモノハ銃名種類和製西洋製ノ區別トモ玉目等ヲ詳記スルヲ要ス

(鐵砲賣買高届書様式)

明治何年何月銃砲賣買及月末現在高届

賣出ノ部

銃名種類檢印番號玉目	員	數	許可又ハ届出月日	買受人住所職業氏名
------------	---	---	----------	-----------

計	軍用銃	免許銃		
---	-----	-----	--	--

買入ノ部

銃名種類檢印番號玉目	員	數	許可又ハ届出月日	賣渡人住所職業氏名
------------	---	---	----------	-----------

計	軍用銃	免許銃		
---	-----	-----	--	--

月末現在ノ部

銃名種類檢印番號玉目	員	數		
------------	---	---	--	--

計	軍用銃	免許銃		
---	-----	-----	--	--

右之通相違無之候也

何市何町銃砲賣買免許商人

何某印

警察署長當

(記載例)

- 一 廢棄、亡失、沒收獻納等ニ係ルモノ又ハ軍用銃ヲ免許銃ニ改造スル許可ヲ得タルモノ、如キハ賣出ノ部ニ記載シ買受人云々ノ欄ニ其事由ヲ詳記スヘシ
- 二 軍用銃ヲ改造シタル免許銃ノ檢査ヲ經タルモノ、如キハ買入ノ部ニ記載シ賣渡人云々ノ欄ニ其事由ヲ詳記スヘシ
- 三 遺失紛失又ハ盜難ニ罹リタルモノ、如キハ月末現在ノ部ニ記載シ員數ノ欄ニ其事由ヲ記載スヘシ發見シタルトキ亦之レニ準スヘシ

○參照

銃砲取締規則

明治五年正月布告第二十八號

第一則 大小銃並彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ外取扱致問敷右定員ノ商賣ハ其地方管轄ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事  
但東京大阪ノ儀ハ武庫司ニ於テ管轄スヘキ事  
免許商賣ノ定員



一 府下 各五員

一 縣下 各三員

一 鎮臺本分營下 各一員

一 但府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケス 各五員

一 開港場

右免許差遣候商賈ノ姓名住所等東京武庫司ヘ届ケルキ事

第二則 免許商人ヲリトモ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ竊ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨ  
官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照シ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳ヘ願出シ手形ヲ  
受ケ其員數ヲ以テ買取可申事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ヘ可願出事

免許商人ハ陸海軍准士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入  
ントスルトキハ買入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムルキ事

第三則 免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名  
其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ物ハ免手形相添毎日其管廳ヘ可差出其器  
毎月十日ヲ限リ管轄鎮臺ヘ差送可申事

但諸鎮臺ヨリ毎歲正月七日兩度半ケ年明細帳ヲ以テ東京武庫司ヘ差送可申尤  
東京大阪ノ儀ハ武庫司ニ於テ取替可致事

第四則 彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミナ計リ勝手ノ場所ヘ差置間  
敷兼テ其地方管廳ヘ願出差圖ヲ受相圖可申事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ヘ願出ヘキ事

第五則 華族ヨリ平民ニ至ル迄迄銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲並彈藥類ヒスト  
ルニ至ル迄私ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ  
持出東京大阪ハ武別紙銃砲改刻印式之通リ番號官印ヲ受可申他人ヘ譲リ與ヘ候節  
ハ第二則ノ手續ニ從フヘ

但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通リタルヘ

銃砲改刻印ノ式

干支何番 武庫司或ハ何府縣

右所持ノ人名番號等逐一書記シ管轄鎮臺ヘ届出鎮臺ヨリ東京武庫司ヘ差送  
可申事

免許ノ銃類

一 和銃四匁目八分玉以下

一 各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレハ霰彈ヲ用ユルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳ヘ届出其廳ヨリ東京武庫司  
ヘ差出可申

東京大阪ハ所持ノ者ヨリ萬一軍用獵用銃ノ差別難相辨者官ヘ尋出候得ハ檢  
査ノ上免許ノ証印ヲ据ヘ可相渡事

第六則 (明治六年第二十五號布告) 獵用銃規則ニ本則ヲ引換

第七則 銃砲彈藥下々ニ於テ獵リニ製造不相成候尤モ新ニ奇功便利ヲ發明シ爲試  
製作致度者ハ其管廳ヘ相願管轄鎮臺ヘ届出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎮臺ヨリ武庫司ヘ差送リ検査ヲ遂ケ採  
用可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄銃砲並彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄廳ヘ

爲差出其願。東京武庫司へ可差出事  
但東京大阪ノ儀ハ賣買ノ者。直ニ武庫司へ可届出事  
右之通ニ候事

訓令警第四十二號

明治二十三年十一月十五日

警察署 分署

銃砲ニ關スル願届其他取扱手續別紙ノ通定ム  
(別紙)

銃砲ニ關スル願届其他取扱手續

第一條 軍用銃買入レ免手形ハ附録第一號様式ニ依ルヘシ

第二條 軍用銃ノ廢棄献納又ハ社寺寄附ノ爲メ檢印削除願ヲ受ケタルトキハ檢印ヲ削除シ且廢棄寄附ニ係ルモノハ火門ニ打釘スヘシ

第三條 免許銃ノ廢棄又ハ社寺寄附届ヲ受ケタルトキハ火門ニ打釘スヘシ

第四條 軍用銃ヲ免許銃ニ改造セントスル願出ヲ許可シタルトキハ其檢印ヲ削除シテ下付シ改造了リ届出タルトキハ更ニ現銃ヲ檢査スヘシ

第五條 軍用銃ノ檢印ハ左ノ式ニ依リ銃身火門ノ左側ニ刻スヘシ

其檢印番號ハ警察部ニ照會スヘシ

檢印式

明治何年何號

島 根 縣

第六條 銃砲ノ賣買讓受其他第十一條ニ定ムル根帳ニ異動ヲ生スル事項ハ附録第二號様式ニ依リ毎月之ヲ取調ヘ翌月十五日限り警察部ニ報告スヘシ

前項ノ異動事項ニシテ遺失紛失又ハ盜難ニ罹リ又ハ其發見ニ係ルモノハ別ニ即報スヘシ

第七條 猶銃製造營業及軍用銃修履營業ノ願出ヲ受ケタルトキハ其年齡平素ノ業務及銃砲ニ關スル前科有無ノ取調書ヲ添ヘ意見ヲ具シ警察部ニ送致スヘシ

第八條 警察署ハ毎年一回所轄内ノ現銃ヲ調査スヘシ

第九條 左ニ掲クル事故アルトキハ其事由ヲ詳記シ關係ノ警察署又ハ他府縣警察部ニ通知スヘシ

一 所轄外ノ者又ハ他府縣ヨリ寄留ノ者ニ銃砲ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキ

二 他府縣居住ノ者ヨリ銃砲ヲ買受ケ又ハ讓受タルトキ

三 他府縣ノ彫刻ニ係ル軍用銃ノ檢印ヲ削除シタルトキ

四 他府縣ヨリ寄留ノ者ノ所有スル銃砲ニ關スル異動及其所有者ノ姓名ニ變更アリタルトキ

五 銃砲ヲ携帯シテ所轄外ニ轉籍寄留寄留替又ハ復歸スルトキ

六 銃砲ヲ携帯シテ他府縣ヨリ入籍寄留又ハ復歸シタルトキ

第十條 前條ノ報告ヲ受ケタル警察署ニ於テハ銃砲根帳ヲ整理スヘシ

第十一條 銃砲根帳ハ左ノ四種ヲ備フヘシ

一 甲軍用銃根帳 附錄第三號様式ノ如シ

二 乙免許銃根帳 附錄第四號様式ノ如シ

右二種ハ所轄内ニ本籍アル現住者ニ係ル根帳ニシテ每郡別冊トナシ每冊中所有者姓字ノイロハ順ヲ以テ其部ヲ分テ編製スルモノトス

三 乙軍用銃根帳 附錄第五號様式ノ如シ

四 乙免許銃根帳 附錄第六號様式ノ如シ

右二種ハ所轄内ニ寄留スル者ニ係ル根帳ニシテ本縣ノ者ト他府縣ノ者トヲ別冊トナシ每冊中所有者姓字ノイロハ順ヲ以テ其部ヲ分テ編製スルモノトス

第十二條 前條ノ根帳ハ左ノ記載例ニ依リ整理スヘシ

一 根帳ニ異動アルルキハ總テ其事由ヲ相當ノ欄内ニ詳記スヘシ

二 根帳ヲ削除スルニハ其冒頭ニ(削除)ノ印ヲ押捺スヘシ

三 銃砲ノ種類ヲ記載スルニハ銃名及其和製西洋製ノ區別旋條ノ長短彈丸ノ量目種類其裝填ノ種別檢印番號他府縣ノ期印ハ等ヲ其府縣名トモ細別シテ記載スヘシ

四 各欄内ニ記載スヘキ年月日ハ沒收ハ其宣告ノ日願出テタル事項ハ許可ノ日届出ハ其日ヲ以テスヘシ

第十三條 左ニ掲クル事故アルトキハ根帳ヲ削除スヘシ

一 銃砲ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキ

二 銃砲ヲ沒收セラレ又ハ廢棄獻納又ハ社寺ニ寄附シタルトキ

三 免許銃ニ改造スル軍用銃ノ檢印ヲ削除シタルトキ但第十四條第二項ノ登載ヲナストキ更ニ檢査濟ノ旨ヲ記入スヘシ

四 水火災ニ依リ銃砲ノ亡失シタルトキ

五 銃砲ヲ所有スルモノ所轄外ニ轉籍シ又ハ銃砲ヲ携帯シテ寄留シタルトキ

六 所轄外ヨリ寄留ノモノ原籍へ復歸又ハ所轄外へ寄留替ヲナシタルトキ

第十四條 左ニ掲クル事故アルトキハ更ニ根帳ニ登載スヘシ

- 一 銃砲ヲ買受ケ又ハ讓受ケタルトキ
  - 二 軍用銃ヲ免許銃ニ改造シ其檢査ヲ了リタルトキ
  - 三 獵銃製造人ノ獵銃ヲ製造シタルトキ
  - 四 銃砲ヲ所有スルモノ所轄外ヨリ入籍シ又ハ復歸シ又ハ銃砲ヲ携帯シテ寄留シタルトキ
- 第十五條 左ニ掲クル事故アルトキハ根帳ノ一部ヲ訂正シ又ハ相當ノ位置ニ轉載スヘシ
- 一 所轄内ニ於テ轉籍又ハ寄留又ハ復歸寄留替ヲナシタルトキ
  - 二 姓名ヲ變更シタルトキ
  - 三 家督又ハ遺産ノ相續ニ依リ銃砲ヲ讓受ケタルトキ
  - 四 免許銃ノ玉目ヲ増減シ又ハ彈器ノ改造等ヲナシタルトキ
- 第十六條 遺失紛失又ハ盜難ニ罹リタル銃砲アリタルトキハ根帳ニ其事由ヲ朱記スヘシ發見シタルトキ亦全シ
- (附錄第一號軍用銃買入免手形樣式) (用紙適宜)
- 軍用銃買入免手形
- 何縣何國何郡何町番地
- 買入出願人 何 某
- 西洋製ミチール銃 何挺 何縣何國何郡何町番地 何某所有

一 和製ホストール銃 何挺 何縣何國何郡何町番地 何某所有  
 右買入ヲ許可ス但買受タルトキハ此手形ヲ賣渡人ニ交付スヘシ  
 明治何年何月何日

島根縣何警察署



(備考) 免許商人ニシテ非免許商人ヨリ買入ル、免手形ニハ但書ヲ除キ又買入先又ハ銃砲ノ種類未定ノモノハ其員數ノミナ記載スヘシ

(附錄第二號銃砲異動報告表樣式) (用紙通常寫紙ニ橫線ヲ畫ス)

明治何年何月銃砲異動報告表 何警察署

許可又ハ届出月日	種類檢印番號	員類	異動ノ事由	新所有者住所氏名	舊所有者住所氏名
何月何日	何	一	讓渡受讓	何國何郡何村大字何番屋敷平民某甲某	何國何郡何町大字何番屋敷士族乙某
何月何日	何	一	賣渡受買	何々	何々
何月何日	何	一	管打ニ改造	何々	何々
何月何日	何	一	死亡讓受	何々	何々
何月何日	何	一	免許銃ニ改造	何々	何々
何月何日	何	一	軍用銃ヲ改造	何々	何々

何 日 月	何 日 月	何 日 月	何 日 月	何 日 月
	一	遺失又ハ發見	○	何々………
	何部何町大字何 々ヨリ轉籍	○	何々………	何々………
	何々ト改名	○	何々………	何々………

(様式第三號乃至第六號略)

第二章 火 藥

縣令第七十七號 明治二十三年十一月十五日

火藥取締細則別紙ノ通定ム

(別紙)

火藥取締細則

第一條 火藥取締規則以下規則ト稱ス第二條ニ依リ火藥類賣買營業免許鑑札ヲ受ケントスル者ハ其願書ヲ作り所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

第一條 煙火又ハ導火繩坑業土工用ニ供スルモノ製造ノ業ヲ管マントスル者ハ規則第二十一條ニ依リ製造所ノ位置ヲ定メ近傍ノ模様ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ借地ニ係ルモノハ地主ト連署シ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

製造所ヲ變更セントスルトキ亦前項ニ準シ願出許可ヲ受クヘシ

第三條 煙火丹類ヲ除ク又ハ導火繩販賣ノ業ヲ管マントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第四條 前數條ノ營業ヲナサントスル者十六歳未満若クハ白痴瘋癲瘡痘ナルトキハ後見人ヲ置キ願出ヘシ

第五條 免許鑑札ヲ亡失毀損シ又ハ轉住改氏名ノトキハ速ニ届出鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ受ケ廢業死亡シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

火藥類買受許可証ヲ亡失シタルトキハ速ニ之ヲ受ケタル警察署又ハ分署ニ届出ヘシ明治二十四年縣令第四十六號改正

第六條 營業ニアラスシテ臨時煙火ヲ製造セントスル者ハ其日限ヲ定メ場所ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第七條 祝典其他賑ヒノ爲メ煙火ヲ揚ケ又ハ發砲セントスル者及火藥類ヲ以テ巖石其他障礙物ヲ破碎セントスル者亦前條ノ手續ニ依リ許可ヲ受クヘシ

第八條 規則第三條ニ依リ火藥類ノ拂下ヲ受ケントスル者ハ出願ノ際免許鑑札ヲ携帯スヘシ

第九條 規則第六條ニ依リ火藥類賣買運搬荷造等ヲナサントスル

者ハ其事由ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ  
第十條 火藥類ハ其營業店舖又ハ倉庫火藥庫若クハ假貯藏所ノ外  
ニ於テ賣買荷造等ヲ爲スヘカラス

第十一條 規則第七條及第十二條ニ依リ火藥類賣買高ヲ届出ルト  
キハ別紙書式ニ依ルヘシ

第十二條 火藥類賣買營業者廢業死亡シタルトキハ十日以内ニ前  
條ノ手續ヲナシ現在ノ火藥類ハ規則第八條ニ依リ營業者ニ賣渡  
スヘシ

第十三條 規則第十條ニ依リ銃砲用又ハ坑業土工其他職業用ノ爲  
メ火藥類買受許可証ヲ受ケントスル者ハ其買受先ヲ定メ所轄警  
察署又ハ分署ニ願出ヘシ明治二十四年縣令  
第四十六號改正

坑業土工用ノ爲メ多量ノ火藥類ヲ要シ内務大臣ノ特許ヲ受ケン  
トスル者ハ其願書ヲ作り所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

第十四條 規則第十三條ニ依リ火藥類ヲ倉庫ニ貯藏セントスル者  
ハ近傍ノ模様ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ借庫ニ係ルトキハ所有者  
ト連署シ所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第十五條 規則第十五條及第二十條ニ依リ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ  
建設セントスル者ハ其願書ヲ作り借地ニ係ルキハ地主ト連署シ

所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ但假貯藏所建設願書ニハ貯  
藏スヘキ火藥數量ノ最多額ヲ記載スヘシ

火藥庫又ハ假貯藏所ヲ改造セントスルトキ亦前項ノ手續ニ依ル  
ヘシ

第十六條 火藥庫又ハ假貯藏所ノ建設改造ヲ竣リタルトキハ所轄  
警察署又ハ分署ノ検査ヲ經テ使用スヘシ

第十七條 火藥庫又ハ假貯藏所ヲ廢シタルトキハ所轄警察署ヲ經  
テ縣廳ニ届出ヘシ

第十八條 導火繩製造用ニ供スル火藥買受手續ハ規則第十條坑業  
土工其他職業用ノ例ニ依リ其買受高ハ全條烟火製造用ノ例ニ遵  
フヘシ

第十九條 左ニ掲クル者ハ倉庫火藥庫及假貯藏所ニ入ラヌヘカラス

一 靴ヲ穿テタル者

二 發火質ノ物品ヲ携帯スル者

三 酩酊者

四 十六歳未滿ノ者又ハ白痴瘋癲瘡病者

第二十條 烟火又ハ導火繩製造ニハ發火質ノ器具ヲ用ウヘカラス  
第二十一條 規則及此細則ニ依リ縣廳又ハ警察署ニ差出スヘキ願

届書ハ分署所轄内ニ於テハ該署ヲ經由スヘシ  
 第二十二條 第二條第三條ヲ犯シ導火繩ヲ製造又ハ販賣シタル者  
 ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料第二條第二項第七條第十條  
 第十五條第二項第十六條ヲ犯シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢  
 以下ノ科料ニ處ス

(火藥類賣買高届書式)

明治何年何月火藥類賣買及月末現在届

前月越高ノ部

品目	数量	買入	買月日	賣主住所職業	姓名
外國製火藥					
外國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					

火藥取締規則 第一章 總則

第一條 凡火藥劇發火藥補火藥ナイトログリセン、ダイナハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス但烟火マツナノ類ハ此限ニアラス

第二條 火藥類火藥劇發火ノ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄府東京府ハニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者ハ一管内ニ十五人以内トス

第三條 火藥類ハ營業者ニ限リ陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條 管轄府東京府ハニ於テ火藥類ノ検査ヲ必要ト認ムル時ハ營業者タルト否トヲ問ハス警察官ヲシテ之ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第五條 戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ停止シ内務卿ハ其賣買運搬ヲ停止スルコトアル可シ

第六條 火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サルハ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可カラズ

第二章 賣買 第七條 營業者ハ毎月賣受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ証書アレバ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第八條 營業者ニ非スニテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其賣渡証書ヲ取リ置クヘシ

第九條 營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職需用ニ限リ火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス但十六歳未満若クハ白痴瘋癲ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サズ

第十條 火藥類ヲ買受ケントスル時銃獵若クハ烟花製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲ニスル者ハ所轄警察署ノ許可証ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍々人ノ射的用ニ供スル者ハ其省ノ許可証ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ工業土工其他職需用ニ供スル者ハ其趣旨及種類數量並使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可証ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サズ

小銃用	火藥	三百目	雷管	五百個
船舶設備銃砲用	大砲一門ニ付火藥五ト發分		雷管	七十個
	小銃一挺ニ付火藥百發分		雷管	百五十個
烟火製造用	火藥	五貫目		
坑業土工其他職需用	火藥二百貫目			
	劇發火藥三十貫目			

坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量並使用ノ場所等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ内務大臣ノ特許ヲ受ヘシ此場合ニ於テハ直ニ陸海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ受ケルコトヲ得

第十一條 營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可証ヲ受取リ火藥類ヲ賣渡ス可シ但第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サズ

第十二條 營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ証書アレバ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第三章 貯藏 第十三條 火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得

營業者ハ前項制限ノ外火藥拾貫目劇發火藥壹貫目雷管導火管類壹萬個迄烟火製造人ハ火藥五貫目劇發火藥五百目迄ハ等轉府東京府ハノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ



貯藏スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥  
五百貫目以上劇發火藥五十貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス  
第十四條 火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ可燃質物ヲ以テ之ヲ區畫ス  
可シ

第十五條 火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置並ニ建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ  
添ヘ管轄廳東京府ハ警視廳ニ願出許可ヲ受ク可シ

第十六條 火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス  
第十七條 火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱線  
船ノ通スヘキ河湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ

第十八條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ屋根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ  
鐵釘石瓦ヲ露ハサス窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フヘカラス又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周  
圍ニ二間以上ヲ隔テ、高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書ケル標  
木曲尺六尺以上ニシテ建ツ可シ  
五十角以上ノモノ

第十九條 火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材木草秣其他燃質物ヲ蓄積スヘカラス又  
五十間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若クハ發  
火質ノ物品ヲ蓄積ス可カラス

第二十條 坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケン  
トスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳東京府ハ  
警視廳ニ願出許可ヲ受ク可シ但第十條制限以上ノ火藥類ヲ貯藏セントスル者ニ對シテハ  
管轄廳ニ於テ特ニ其距離ヲ指定スルコトヲ可シ

第二十一條 烟火製造所ハ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ  
可シ又五百貫目以上ノ火藥類ヲ置ク可カラス

第四章 運 搬  
第二十二條 五百貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場  
所及水陸通路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可証ヲ受ケ之ヲ携帯シ運搬畢ヲ直  
ニ之ヲ返納ス可シ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ  
納ム可シ

第二十三條 五百貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スルハ鐵釘鉄輪ヲ用ヒサル木製銅製若  
クハ亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ筵包若クハ繩巻ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤  
地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗陸路ニハ曲尺縱二尺横二尺五寸水路  
ニハ曲尺縱三尺五寸横五尺ヲ建テ護送人ヲ附  
ス可シ但船積スル時ハ明治六年八月第二十九號布告危害品船積法ニ從フ可シ

第二十四條 火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ沐浴ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ヒ  
看守人ヲ附ス可シ

第五章 罰 則  
第二十五條 私ニ火藥類ヲ製造シ若シハ販賣シタル者ハ軍用品ニアラスト雖モ刑  
法第五百七十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第六十條ヲ適用ス

第二十六條 刑法第五百五十八條第五百五十九條第六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シテ  
ル者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十七條 私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金  
ニ處ス

第二十八條 第四條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第  
十條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十一條ニ違犯シタル者又ハ營

業者買買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若クハ讓渡シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 營業者此規則ニ違背シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

附 則

一 從前允許ヲ得タル火藥製造人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄其營業ヲ差許シ又同日迄ニ火藥製造諸器械及火藥類ノ現貯藏數量ヲ記シ管轄廳東京府ハ警視廳ニ願出ニ於テハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買上ク可シ

一 從前允許ヲ得タル彈藥允許商人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄火藥賣買營業ヲ差許シ從前允許ヲ得タル烟火製造所ハ右同日迄其製造ヲ差許ス又從前火藥類ヲ貯藏シタル者ハ來ル明治十八年一月三十一日迄其貯藏ヲ差許ス其日限ヲ過シタルトキハ總テ此規則ニ從フヘシ

○參照 危害品船積法則 明治六年八月布告第二百九十二號

危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚キハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不易儀ニ付左ノ條件ノ法則ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事

一 火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火ノ易キ製藥品其他油脂蠟液並腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致シ候テハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危險請合會社等ノ承諾ヲ得テ

後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セシト謀ル者ハ金五百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

一 尋常ノ品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品可有之ト見受候時ハ船主船長運送會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラス何地ヲ論セス直チニ發包シテ之ヲ視查スルノ權利可有之事

但爲視查發包シタル荷物中ニ危害品無之時ハ船主會社等ノ入費ヲ以テ故ノ如ク荷造可致然レ共其荷物中ニ危害品有之時ハ是等ノ入費都テ荷主ノ可拂事

一 此危害品ニ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社ノ倉庫等ニ於テ見出ス時ハ之ヲ安全ノ場所ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判所ニ可届出候但安全ノ場所ニ之ヲ移スノ費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

一 此危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全ノ場所ニ保テ難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ保証人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ着港ノ上直ニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其他ノ管轄廳或ハ裁判所ニ可届出候

但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主ノ損失ヲ辨償スルニ不及事  
一 船長及ヒ運送會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常ノ荷物トシテ船積シ或ハ船積セシト謀ル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出ストイヘ官官ニ訴ヘ出サレ時ハ金貳百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

告示第六十九號

明治二十一年六月二十五日

火藥取締規則第三條ニ依リ陸軍省ハ東京砲兵工廠及大坂砲兵工廠海軍省ハ東京府下荏原郡海軍火藥製造所ニ於テ火藥類拂下可相成

ニ付該營業人ニシテ拂下望ノ向ハ同所ニ出願スヘシ明治二十三年告示第六十二號改正

但出願之節ハ免許鑑札携帯スヘシ

訓令警第四十一號 明治二十三年十一月十五日

警察署 分署

火藥類賣買營業其他願届取扱手續別紙ノ通定ム

(別紙)

火藥類賣買營業其他願届取扱手續

第一條 火藥取締細則以下細則ト稱ス第一條ニ依リ火藥類賣買營業願書ヲ

受ケタルキハ左ノ各項ノ取調書ヲ添ヘ警察部ニ送致スヘシ

一 年齢

二 平素ノ業爲及資力ノ有無

三 前科ノ有無特ニ火藥類ニ關スル犯罪ニ付テハ其事實ノ大要

四 火藥取締規則以下規則ト稱ス第十三條第一項火藥類貯藏所ノ模様及

第二項倉庫準備ノ有無

第二條 細則第二條及第三條ニ依リ烟火又ハ導火繩製造販賣及製

造所變更願書ヲ受ケタルキハ規則第二十一條ニ依リ製造所ノ位

置ヲ檢査シ其他必要ノ事項ヲ取調ヘ差支ナキモノハ免許鑑札ヲ

下付シ又ハ許可ノ指令ヲ與フヘシ

導火繩製造願書許可シタルトキハ其年月日及製造人ノ族籍住所

氏名年齢前製造所ノ位置等ヲ詳記シ直ニ警察部ニ報告スヘシ

第三條 細則第五條ニ依リ火藥類賣買營業免許鑑札ノ再渡又ハ書

換ヲ請ヒ若クハ之ヲ返納スルモノアルキハ本人ノ届書ト共ニ警

察部ニ送致スヘシ

火藥類買受許可証忘失ノ届出アリタルキハ該許可証ノ無効タル

旨ヲ買受先ノ營業者ニ通知スヘシ

第四條 細則第七條巖石類破碎ノ日出前日没後ニ係ルモノハ許可

スヘカラス

第五條 警察署ニ於テハ細則第十一條及第十二條ニ依リ差出シタ

ル火藥類賣買高届書ニ依リ附録第一號表式ニ倣ヒ毎一年間ノ種

類數量ヲ統計シ翌年一月十五日迄ニ警察部ニ送致スヘシ

第六條 細則第十三條ニ依リ火藥類買受許可証下付ノ願書ヲ受ケ

タルトキハ其種類數量買受先等ヲ諸願即決簿ニ記載シ附録第二

號書式ニ依リ之ヲ下付スヘシ

火藥類買受ノ爲メ内務大臣ノ特許ヲ受ケントスル願書ヲ受ケタ

ルキハ其實況取調書ヲ添ヘ警察部ニ送致スヘシ

第七條 細則第十四條及第十五條ニ依リ倉庫貯藏又ハ火藥庫假貯

藏所建設改造願書ヲ受ケタルトキハ規則第十六條第十七條及第二十條ニ照シ現場ヲ検査シ其取調書ヲ添ヘ警察部ニ送致スヘシ

第八條 細則第十六條ニ依リ火藥庫又ハ假貯藏所検査ノ際建築方法書ニ適合セサルモノアルキハ之ヲ改造セシメタル上其使用ヲ許スヘシ但警察部ニ於テハ豫メ建築方法書ノ寫ヲ警察署ニ交付スヘシ

第九條 細則第十七條ニ依リ火藥庫又ハ假貯藏所廢止ノ届出アリタルトキハ時宜ニ依リ現場ニ臨檢スヘシ

第十條 規則第二十二條ニ依リ火藥類運搬許可証ヲ請フ者アルトキハ其種類數量運搬先等ヲ諸願即決簿ニ記載シ附錄第三號書式ニ依リ之ヲ下付スヘシ此場合ニ於テハ運搬人ノ氏名及火藥類ノ種類數量運搬ノ日時場所通路ノ名稱等ヲ詳記シ到着地及沿道警察署又ハ分署ニ通知スヘシ但到着地他府縣ニ係ルキハ該府縣警察部ニ通知スヘシ

第十一條 規則第二十二條ニ依リ他ノ警察署ニ於テ下付シタル運搬許可証ヲ納付スルモノアルトキハ直ニ之ヲ下付シタル警察署ニ通知スヘシ

第十二條 規則第三十條ニ依リ營業禁止又ハ其停止ヲ必要ト見認

ムルモノアルキハ其事由ヲ具申スヘシ

第十三條 分署ニ於テ規則又ハ細則ニ依リ縣廳又ハ警察署ニ差出スヘキ願届ヲ受ケタルキハ相當ノ手續ヲナシ所轄警察署ニ進達スヘシ

附錄第一號 火藥類賣買高統計表樣式

明治何年中火藥類賣買高統計表 何 警 察 署

種 類	前年ヨリ		買入高	賣出高	年末現在	營業者住所氏名
	越	高				
内國製火藥						何 某
外國製火藥						
内國製ダイナマイト						何 某
外國製ダイナマイト						
内國製雷管						何 某
外國製雷管						
内國製火藥						何 某
外國製火藥						
内國製ダイナマイト						何 某
外國製ダイナマイト						
内國製雷管						何 某
外國製雷管						

計  
 內國製火藥  
 外國製火藥  
 外國製雷管  
 內國製何々

附錄第二號

火藥類買受許可証様式

火藥類		買受先		數量		種類	
一	火藥	何縣何市何町何番地	何	何貫目	一	一	一
一	雷管	何縣何市何町何番地	何	何百個	一	一	一
一	何々	何縣何市何町何番地	何		一	一	一
烏獸威殺銃用又ハ何地坑薬用		火藥類賣買營業人		何		某	

裏面

買受人心得  
 一 表面ノ火藥類ヲ買受クルトキハ此許可証ヲ火藥類賣買營業者  
 ニ交付スヘシ  
 二 此許可証ヲ亡失シタルトキハ速ニ當署ニ届出ヘシ

第 何 號 明治何 年何 月何 日

島根縣何 警察署 印



第三章

格魯兒酸加留謨

縣令第二百二十三號

明治二十二年十一月十三日

醫師獸醫藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テスルノ外何人タリトモ格魯兒酸加留謨<sup>ルイソチン</sup>ヲ賣買授受スルトキハ豫メ其斤量及需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ<sup>明治廿三年縣令第十七號 全廿六年縣令第十九號改正</sup>

但警察官ハ臨時其現品ヲ検査スルコトアルヘシ

前項ノ手續ニ違反シ賣買授受シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

届書式

明治二十三年縣令第十七號改正

一格魯兒酸加留謨

斤量

右ハ(工職用等何々)必要ニ付前書ノ斤量(賣買)(授受)致度御認可被成下度候也

本籍何<sup>府</sup>何<sup>市</sup>何<sup>郡</sup>何<sup>町</sup>番地<sup>何</sup>籍職業  
現住所何<sup>府</sup>何<sup>市</sup>何<sup>郡</sup>何<sup>町</sup>番地  
(買主)(受主) 氏 名 年 齡 實印

年 月 日

島根縣何<sup>郡</sup>何<sup>村</sup>番地<sup>何</sup>籍職業  
(賣主)(授主) 氏 名 年 齡 實印

警察署長又ハ分署長當

警乾第六三號 明治二十二年十一月十三日警部長訓示

縣令第二百二十三號格魯兒酸加留謨賣買授受届出ノ件取扱方左ノ各項ニ依ルヘシ

一 賣買授受ノ届ヲ受ケタルトキハ篤ト其事由ヲ取糺シ不都合ナキモノハ之ヲ認可スヘシ

二 買主受主所轄外ノモノナルハ認可ノ都度届出ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署(他府縣ニ係ルモノハ其警察本部)ニ通知スヘシ

三 認可ノ後ト雖モ買主受主ニ於テ届出ノ目的ニ充用スルヤ否ヤヲ視察スルヲ要ス  
右訓示ス

第四章

蒸氣器械取締規則

島根縣令第三十三號

明治二十六年三月六日

蒸氣器械取締規則別紙ノ通定ム

(別紙)

蒸氣器械取締規則

- 第一條 工業其他何等ノ用ニ供スルヲ問ハス蒸氣器械ヲ建造シ又ハ其構造ヲ變換シ若クハ修理セントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 第二條 前條ノ届出ヲナストキ建造ニ係ルモノハ汽罐汽機ノ圖面並左ノ各項ノ取調書、建造場所ノ圖面、近接地主家主ノ承諾書變換又ハ修理ニ係ルモノハ其方法書ヲ差出スヘシ
  - 一 汽罐ノ種類個數
  - 二 汽罐ノ寸法及罐板ノ厚サ
  - 三 最大汽壓
  - 四 汽機ノ種類
  - 五 公稱馬力
  - 六 烟突ノ高サ
  - 七 汽罐及汽機製造ノ年月
  - 八 汽罐汽機ノ取扱ヲ擔任スル者ノ族籍氏名並ニ履歷ノ概要
- 第三條 第一條ノ認可ヲ受ケ其工事ヲ竣リタルトキハ更ニ同條ノ手續ニ依リ届出検査ヲ受ケタル後使用スヘシ

- 第四條 前條ノ届出ニ依リ蒸氣器械ノ検査ヲナシタルトキハ最大汽壓ヲ檢定シ検査証書ヲ交付シ且安全瓣ニ封印スルモノトス  
前項ノ検査証書ハ場内見易キ所ニ掲示スヘシ
- 第五條 検査証書ノ有効期限ハ其蒸氣器械ノ現狀ニ依リ十二個月以內ニ於テ之レヲ定ムルモノトス  
検査証書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其事由ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出再渡ヲ受クヘシ
- 第六條 蒸氣器械ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキ又ハ使用ヲ廢シ又ハ撤去スルトキハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但賣渡讓渡ニ係ルモノハ雙方ノ連署ヲ要ス
- 第七條 蒸氣器械建設ノ場所ハ當該官吏ヲシテ時々検査セシムルコトアルヘシ但器械ノ検査ヲ行フトキハ豫メ其期日ヲ管理者ニ通知ス
- 第八條 安全瓣ノ封印ヲ妄リニ開閉シ又ハ検査証書ニ記載シタル最大汽壓ヲ超過スヘカラス
- 第九條 蒸氣器械ノ毀損其他危害ヲ生スヘキ虞アリト認めタルトキハ何時ニテモ其使用ヲ差止メ又ハ修理ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十條 第一條第三條第八條ヲ犯シタル者及第九條ノ命令ニ從ハ



サル者ハ刑法第四百二十五條第五項ニ依リ處分スヘシ

附 則

一 此規則施行以前ノ建造ニ係ルモノハ明治二十六年三月三十一日限り第二條ニ記載シタル圖面並ニ取調書ヲ添ヒ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ  
(檢査証様式畧ス)

○第五章

新聞紙雜誌發行届出方

縣令第九十七號

明治二十一年九月二十九日

新聞紙雜誌ヲ發行スル者ハ別紙書式ニ倣ヘ毎月發行高取調翌月三日限り縣廳ヘ届出ヘシ  
(別紙) 明治二十二年縣令第九十七號改正

某新聞紙(雜誌)配布數

明治年 月分

配 布 先	配 布 數
何 府 縣	
在 外 國 本 邦 人	
計	
外 國 人	

合 計

右御届申上候也

明治年 月 日

發行人 何 某 印

島根縣知事 某 殿

一本表中何府縣トアルハ本邦内配布先ノ府縣名ヲ記入スヘシ  
一 配布ノ項ニハ發賣スルモノ及ヒ發賣セスシテ單ニ全社員ニ配布スルモノ並ニ無代價ニテ官廳ニ納付スルモノヲ合セテ記入スヘシ

○參照

新聞紙條例

明治二十年<sup>十二</sup>勅令第七十五號

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行日ノヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄區  
東京府ハテ經由シテ内務省ニ届出ヘシ  
第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 題號
  - 二 記載ノ種類
  - 三 發行ノ時期
  - 四 發行所及印刷所
  - 五 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢
- 編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設ケルコトヲ得
- 第三條 届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ

二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出スヘ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出スヘ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出チナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出チナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セザルトキハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人、編輯人、印刷人トナレコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條 編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條 發行人ハ保証トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳東京府ハニ納ムヘ

- 一 東京ニ於テハ千圓
- 一 京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓
- 一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓
- 一 一月三回以下發行スルモノハ各管記ノ半額

保証金ハ時價ニ準シタル公債証書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ

限ニアラス

第九條 保証金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保証金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保証金ヲ納メズシテ發行スルモノハ正當ノ届出チナシ又ハ保証金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘ

第十一條 新聞紙ハ毎號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘ

發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳東京府ハ及警轄始審裁判所 檢事局ニ各一部ヲ納ムヘ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル常人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求テ受ケタル後チ其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘ

若シ正誤書辯駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辯駁ノ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘ

正誤辯駁ノ文章若シハ趣旨法律ニ觸ル、トキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要セズ

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辯駁書ヲ掲載シタルトキハ常人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ

其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス

傍聴ヲ禁セタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サルハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ職事及法律ニ依リ傍聴ヲ禁シタル公會ノ職事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ内務大臣ニ於テ其發行ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條 新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍器ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十二條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスニテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除ク外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セズ又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保証金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラザルトキハ刑法徵收處分ニ依ル

保証金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳東京府ハノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其缺額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ局出ヲ爲サズ又ハ第六條第七條第十一條第一項第十二條ヲ犯シ又ハ保証金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保証金ヲ納メズシテ發行

ノナルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセザルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保証金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ

第三十一條 第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ貳拾圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條 猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人、編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三十五條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十六條 此條例ニ關スル告訴ノ期間免除ハ六個月トス

第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

○參照

出版法

明治二十六年四月法律第十五號

第一條 凡ソ機械舎密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖書ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依ルヘシ但シ專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條 出版局ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但シ非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミヨリ届出ルコトヲ得

版權ノ保護ナキ文書圖書ヲ出版スルトキ若ハ著作者又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカ

ヲサルトキハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ學校、會社、協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ届出ヘシ

第六條 文書圖書ノ發行者ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但シ著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼スルコトヲ得

第七條 文書圖書ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載スヘシ

第八條 文書圖書ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス

前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其名稱ヲモ記載スヘシ

第九條 書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙証書ノ類及寫眞ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

第十條 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省略スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十一條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖書ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖若改正

増減シ又ハ註解、附録、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十二條 演說若ハ講義ノ筆記ハ演說者若ハ講義者ヲ以テ著作者トス但シ筆記者ニ於テ演說者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作者ト看做スヘシ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、トキハ演說者若ハ講義者筆記者ト同ク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經シテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ノ外ハ講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但シ本項ニ違フ者ハ版權法ニ據リ其ノ責ニ任セス

第十三條 二種以上ノ著作若ハ演說講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十五條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ出版届ニ署名シタル代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十六條 罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸ラタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版ス

ルコトヲ得ス

傍聴ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公コセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルコト非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聴ヲ禁シタル公曾ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其ノ文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖書ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ貳圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書

圖書ニ記載セス若ハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ罰前條ニ同シ  
住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ

第二十六條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作、發行者、印刷者ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二拾圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ル、文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作、發行者ヲ十一月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁シタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ全シ其ノ未タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

第三十條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若シテ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

第三十三條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十四條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ内務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ禁止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレハ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十五條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此法律ニ依ル

## 第六章 集會及政社法

### 集會及政社法 明治二十六年四月法律第十四號

第一條 此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ  
政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會二十四時間以前ニ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ  
政談集會ノ届出ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

一 集會ノ場所

二 集會ノ年月日時

三 發起人ノ氏名、住所

四 講談論議者ノ氏名

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

届書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若ハ三時間以上中斷スルトキハ届出ノ効ヲ失フモノトス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ第二項ノ届出ヲ要セス

第三條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セムトスルトキハ發起人ヨリ二十四時間以前ニ會同スヘキ場所、年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ但シ祭典、講社、學生生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

屋外ニ於テ政談集會ヲ開キ又ハ政治ニ關ル意思ヲ表スルノ目的ヲ以テ公衆ヲ會同スルハ堅固ナル屏障ヲ設ケ自由ノ交通ヲ遮斷

シタル地域内ニ限ルモノトス

警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ハラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第四條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ第三條第一項ノ但書ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第五條 左ニ掲クル者ハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

- 一 日本臣民ニ非サル者
- 二 公權剝奪及停止中ノ者

第六條 左ニ掲クル者ハ政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス

- 一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人
- 二 警察官

三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒

四 女子

五 未成年者

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ

有スル者ニ限リ本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第七條 政談集會ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ講談論議者ヲラシムルコトヲ得ス

第八條 警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得

發起人ハ臨監警察官ニ其求ムル所ノ席ヲ供シ且集會ニ關ル事項ニ付尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

政談集會ニアラサルモ其ノ狀況安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第九條 集會及運動ニハ武器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ武器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ教唆スルノ談論ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 會場ニ於テ故ヲ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ涉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十二條 集會ニ於テ講談論議安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ



ハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルヲ得

一 集會ノ成立此ノ法律ニ背キタルトキ

二 警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セス又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ

三 會衆騷擾ニ涉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セサルトキ

四 第六條第九條ノ違犯者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其ノ命ニ從ハサルトキ

五 集會ノ狀況安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ

第十四條 第二條ノ届出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發起人罰前項ニ同シ

第十五條 第三條ノ認可ヲ受ケスシテ集會若ハ運動ヲ爲シタルトキハ發起人ヲ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第四條ヲ犯シタルトキハ發起人ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第五條第六條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰

金ニ處ス

第七條ヲ犯シタル發起人又ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ罰前項ニ同シ

第十八條 第九條ヲ犯シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 政社ニハ社員名簿ヲ備ヘ及役員ヲ置クヘシ

政社ハ組成後三日以内ニ其ノ役員ヨリ社名、社則、事務所及役員ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦全シ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收証ヲ交付スヘシ

役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

第二十二條 政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ會場及講談論議者ヲ豫定シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初期ノ開會二十四時間以前ニ届出ルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス其届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十三條 左ニ掲クル者ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス

一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人

二 警察官

三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒

四 女子

五 未成年者

六 公權剝奪及停止中ノ者

第二十四條 政社ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第二十五條 政社ハ標章及旗幟ヲ用ヰルコトヲ得ス

第二十六條 政社ハ他ノ政社ト連結スルコトヲ得ス

第二十七條 政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其發言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設

クルコトヲ得ス

第二十八條 政社ニシテ支社ヲ設クルトキハ總テ政社ノ規定ニ依ル

第二十九條 結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得

第三十條 第二十一條ニ違フトキハ其ノ役員ヲ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ尋問ヲ受ケテ答フルニ實ヲ以テセサル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十一條 第二十三條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十二條 第二十五條ニ背キ標章旗幟ヲ用ヰタル者及其ノ政社ノ役員ハ罰前條ニ同シ

第三十三條 第二十六條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二十九條ノ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社ノ實アル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ

處ス

第三十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十六條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ六箇月ヲ經過スルニ由テ成就ス

第三十七條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限ニ在ラス

明治二十二年<sup>月</sup>內閣訓令

凡ソ官吏タル者ハ自今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政事上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ之ヲ敘述スルコトヲ得但各長官ノ監督ニ從屬スヘシ

法律規則ヲ以テ特ニ制限セラレタル官吏ハ前項ノ限ニ在ラス

○第七章 保安條例

保安條例

明治二十年<sup>月</sup>勅令第六十七號

第一條

凡ソ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教唆者ハ二等ヲ加フ

內務大臣ハ前項ノ秘密結社又ハ集會又ハ集會條例第八條ニ載スル結社集會ノ聯結通信ヲ阻遏スル爲ニ必要ナル豫防處分ヲ施スコトヲ得其處分ニ對シ其命令ニ違犯スル者罰前項ニ同シ

第二條

屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フ者首魁教唆者及情ヲ知リテ參會シ勢ヲ助ケタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加シ其附和隨行シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

集會者ニ兵器ヲ携帶セシメタル者又ハ各自ニ携帶シタル者ハ各本刑ニ二等ヲ加フ

第三條

內亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ文書又ハ圖畫ヲ印刷又ハ板刻シタル者ハ刑法又ハ出版條例ニ依リ處分スルノ外仍其犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒收スヘシ

第四條

印刷者ハ其情ヲ知ラサルノ故ヲ以テ前項ノ處分ヲ免ル、<sup>ト</sup>ヲ得ス

皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ

内亂ヲ隠謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルト  
キハ警視總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ  
限リ退去ヲ命ジ三年以内全一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁ス  
ルコトヲ得

退去ノ命ヲ受ケテ期日又ハ時間内ニ退去セサル者又ハ退去シタル  
後更ニ禁ヲ犯ス者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍五年以下  
ノ監視ニ附ス

監視ハ本籍ノ地ニ於テ之ヲ執行ス

#### 第五條

人心ノ動亂ニ由リ又ハ内亂ノ豫備又ハ隠謀ヲ爲ス者アルニ由リ治  
安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認ムル場  
合ニ於テ其一地方ニ限リ期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ命  
令スルコトヲ得

- 一 凡ソ公衆ノ集會ハ屋内屋外ヲ問ハス及何等ノ名義ヲ以テスル  
ニ拘ハラズ豫メ警察官ノ許可ヲ經サル者ハ總テ之ヲ禁スル事
- 二 新聞紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經スシテ發行ス  
ルヲ禁スル事
- 三 特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除ク外銃器短銃火

藥刀劍仕込杖ノ類總テ携帶運搬販賣ヲ禁スル事

- 四 旅人ノ出入ヲ檢査シ旅券ノ制ヲ設クル事

#### 第六條

前條ノ命令ニ對スル違反者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓  
以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法又ハ其他特別ノ法律ヲ併セ犯  
シタルノ場合ニ於テハ各本法ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス

#### 第七條

本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

#### ○第八章 豫戒令

明治二十五年勅令第十一號

第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持  
スル爲メ左ノ事項ニ該當スルモノト認ムルトキハ豫戒命令ヲ爲  
スコトヲ得

- 一 一定ノ生業ヲ有セス平常粗暴ノ言論行爲ヲ事トスル者
- 二 總テ他人ノ開設スル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
- 三 公私ヲ問ハス他人ノ業務行爲ニ干涉シテ其自由ヲ妨害シ又  
ハ妨害セントシタル者
- 四 第二號又ハ第三號ニ掲ケル妨害ヲ爲スノ目的ヲ以テ第一號

ヨリ第三號マテニ記載シタル者ヲ使用シタル者  
第二條 豫戒命令ハ左ノ如シ

一 一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メテ之ニ従事スヘキコトヲ命ス

二 總テ他人ノ開設スル集會ニ立入り妨害ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス

三 如何ナル口實ニ拘ハラズ財物ヲ強請シ不當ノ要求ヲ爲シ強テ面會ヲ求メ脅迫ニ涉ル書面ヲ用ヒ勸告書ヲ送り又ハ如何ナル方法タルヲ問ハズ暴威ヲ示シテ他人ノ進退意見ヲ變更セシメントシ其他他人ノ業務行爲ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス

四 人ヲ使用シテ總テ他人ノ開設シタル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシ又ハ他人ノ業務行爲ニ干涉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ爲サシメサルコト及ヒ豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ扶助シ又ハ使用スヘカラサルコトヲ命ス但シ親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前條第一號ニ該當スル者ニ對シテハ第一號第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第二號第三號ニ該當スル者ニ對シテハ第二

號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第四號ニ該當スル者ニ對シテハ第四號ノ事項ヲ命令ス

第三條 豫戒命令ヲ受ケタル者其現住居ヲ轉スルトキハ轉居ノ前二十四時間内ニ其旨ヲ舊住居ノ所轄警察署ニ届出テ轉居ノ後二十四時間内ニ其旨ヲ新住居ノ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第四條 豫戒命令ヲ受ケタルヨリ三年以内ニ其命令又ハ第三條ノ規程ニ違反シタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ處罰ス

第二條第一號ノ違反者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條第二號ノ違反者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス  
第二條第三號ノ違反者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮ニ處ス其所犯官吏又ハ公吏ノ職務ニ對スルトキハ一等ヲ加フ

第二條第四號ノ違反者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮又ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條ノ違反者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 豫戒命令ヲ爲スニハ命令書ヲ作り其命令ヲ受クル者ノ氏名年齢身分職業本籍住所第一條第何號ニ該當スル者タルコト第二條ニ記載シタル命令第三條ノ全文第四條ニ記載シタル違反者

ノ罰例竝ニ命令ヲ爲シタル年月日警視總監北海道廳長官府縣知事官氏名ヲ記載シテ本人ニ下付シ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第六條 豫戒命令ヲ受ケタル者一年以上ヲ經過シ悛改ノ情狀著シキトキハ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ其命令ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第七條 豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ止宿又ハ同居セシムル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ所轄警察署ニ届出テ又所轄警察署ノ要求アルトキハ本令ノ施行ニ關スル事項ニ付事實ノ申立ヲ爲スヘシ若シ其届出ヲ怠リ又ハ不實ノ申立ヲ爲シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 豫戒命令違反ノ刑ハ其本住所ノ地ノ所屬監獄ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得

第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○第九章 爆發物取締罰則

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ

死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止マル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供スヘキ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ

六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

○第十章 決闘律

決闘ニ關スル法律 明治二十二年<sup>十一月</sup>法律第三十四號

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ミニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ証人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

情ヲ知テ決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罪ヲ以テ論ス

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

第九類 道路田野

○第一章 街路

縣令第七號 明治二十一年一月十八日

街路取締規則別紙ノ通定メ明治二十一年三月一日ヨリ施行ス  
(別紙)

街路取締規則

第一章 通則

第一條 街路ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿フタル下水並ニ橋梁トス  
第二條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠リ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徵收ス

第二章 街路ノ安寧及保存

第三條 街路ニ建物軒檐旗柱招牌物干等ヲ設ケ又ハ出スヘカラス  
第四條 左ニ掲クルモノハ街路ニ出スヲ得ヘキモノトス

一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内

二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以内

三 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内

四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内

第五條 左ニ掲クルモノハ其場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署

ニ願出許可ヲ受クヘシ但第一乃至第五ハ戸長ノ奥印ヲ要ス

一 數戸共用ノ爲メ飲用水井戸ヲ設クル事

二 消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ノ置場ヲ設クル事

三 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル事

四 街燈ヲ建設シ又ハ樹木ヲ植ユル事

五 華表指導標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル事

六 柵欄支柱又ハ上ケ椽ヲ設クル事

七 屋臺店床店露店ヲ出シ又ハ一時小屋掛若クハ葭藁張ヲ設クル事

八 工事ノ爲メ路傍ニ竹木土石類ヲ置キ又ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事

九 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事

十 神輿山車手踊屋臺又ハ舞臺ヲ出ス事

十一 神佛祭禮法會説教又ハ諸興行其他報告ノ爲メ榜標ヲ建設スル事

十二 神佛送迎ノ爲メ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛馬車ニテ運搬スル事

十三 車馬通行停止ノ榜示アル場所ニ車馬ヲ出入スル事

第六條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直ニ原形ニ復スヘシ

第七條 街路ニ出テタル軒檐ニハ軒樋及堅樋ヲ設クヘシ其堅樋ハ

街路ノ地盤ニ出スヲ得ス但檐溜ノ下水ニ落ル者ハ此限ニアラス

第八條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所

ハ其模様ニヨリ道敷ノ境界ニ塙壁ヲ設クヘシ

第九條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ鉄鎖其他強靱



ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スルキハ顯  
仆セサル様堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十條 街路ニ沿フタル建物及樹木等崩壞顛仆ノ虞アルモノハ速  
ニ修理撤却若クハ扶植伐採スヘシ

第十一條 街路ニ竹木土石類ヲ置クキハ標識ヲ設クヘシ

第十二條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置ク  
トキハ路傍ニ片寄セ標燈ヲ掲クヘシ

第十三條 地盤ニ凹所ヲ生シ通行危峻ノ虞アルトキハ傍圍ヲ爲ス  
ヘシ

第十四條 橋梁溝渠下水又ハ制札指導標便所墻壁ヲ毀棄壅塞若ク  
ハ汚損シ及街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス

第十五條 便所墻壁橋欄等ニ樂書貼紙ヲ爲スヘカラス

第十六條 街路ニ商品薪炭荷車其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置ク  
ヘカラス

第十七條 街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲナシ又ハ爲サシムヘ  
カラス

第十八條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スヘカラス

第十九條 街路ニ於テ放歌高聲シ若クハ喧噪醉臥スヘカラス

第二十條 街路ニ於テ松明又ハ裸火ヲ燭スヘカラス

第二十一條 街路ニ於テ袒裼裸休スヘカラス

第三章 街路ノ清潔

第二十二條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草ヲ存スヘカ  
ラス

第二十三條 街路ノ積雪ハ時々之ヲ掃除スヘシ但日没後日出前ハ  
此限ニアラス

掃除シタル雪ハ河海下水其他妨害トナラサル場所ニ投棄スヘシ

第二十四條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ

第二十五條 汚水ヲ街路ニ洒注スヘカラス

第二十六條 下水ハ毎年二回四月及十月浚深スヘシ  
其浚ヒ揚ケタル淤泥塵芥等ヲ街路ニ布キ又ハ路傍ニ留置スヘカ  
ラス

第二十七條 街路ノ掃除ハ其兩側居住人ニ於テ中央ヲ限界トシテ  
負擔シ片側ナレハ其居住人全ク之ヲ負擔スヘシ但空屋空屋敷ナ  
ルキハ其所有主ノ負擔トス

第二十八條 街路ノ廣場及溝渠下水等一町若クハ數町ニ關スルモ  
ノハ其關係町内ノ負擔トス

第二十九條 街路又ハ之ニ沿フタル河川ニ於テ蓋ナキ器物船等ニテ尿尿ヲ運輸スヘカラス

第三十條 街路ニ沿フタル乗船場ニ於テ尿尿ヲ載セタル船ヲ繫クヘカラス

第三十一條 街路ニ於テ便所ニ非サル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第三十二條 街路ニ於テ敷物疊穀類其他ノ塵埃ヲ掃フヘカラス

第三十三條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十四條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等襤褸其他見苦敷若クハ危険ナル物品ヲ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

第三十五條 牛馬及諸車ハ街路ノ中央ヲ通行スヘシ

第三十六條 夜中燈火ナクシテ牛馬諸車ヲ疾驅スヘカラス

第三十七條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ

第三十八條 牛馬諸車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十九條 車二輛以上ヲ連繫シテ輓クヘカラス但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限ニアラス

第四十條 人馬諸車ノ避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬及歩行者行逢フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊前砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

二 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

三 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ掛聲ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

四 郵便用消防用ニ供スル車、馬又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第四十一條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車、馬ハ徐行スヘシ

第四十二條 車、馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第四十三條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ街路ニ横ニヘカラス但一時車輜ヲ路傍ニ駐止スルトキハ其側面ヲ街路ニ向ケ置クヘシ

第四十四條 制止ヲ肯ンセスシテ人ノ群集シタル場所ニ牛馬諸車

ヲ牽入ルヘカラス

第四十五條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス

第四十六條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行妨害ヲ爲スヘカラス

第四十七條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ啖シ又ハ驚逸セシムヘカラス

第四十八條 街路ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ又ハ獨樂羽子手毬ヲ弄スル等通行ノ妨ケトナルヘキ遊戯ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第四十九條 街路ニ於テ軍談輕業其他人寄セテ爲スヘカラス

第五章 罰 例

第五十條 第三條第五條ヲ犯シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料第六條第九條ヲ犯シ官ノ督促ニ應セサル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料第十五條第二十條第二十六條第二項第二十九條第三十條第三十一條ヲ犯シタル者及第二十一條第三十四條第三十七條第三十九條第四十五條第四十九條ヲ犯シ制止ヲ肯ンセサル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス但刑法ニ正條アル者ハ各其本條ニ依リ處分セラルヘシ

縣令第八號

明治二十一年一月十八日

街路取締規則ハ當分ノ内松江市街及其接續連檐ノ地ニ限リ施行ス現在ノ建物軒檐物干等ニシテ本則第三條ニ牴觸シ及ヒ第四條第二項ノ制限ニ適セサルモノハ明治二十二年中改造又ハ除去スヘシ但從前拜借地ニ設ケアルモノハ其拜借年期中之ヲ存スルヲ得

明治二十一年一月十八日

街路取締規則第一條第二條第五條第一項第二項第三項第四項第五項第十三項第六條第十條第十四條第十五條第十九條第三十六條第三十八條第四十條第四十四條第四十七條ハ一般ノ公道ニ適用シ全則第五條第八項第九條第十一條第十八條第二十條第二十一條第二十五條第二十九條第三十一條ハ人家稠密ノ地ニ適用ス前條項ヲ犯シタルモノハ同則第五十條ニ依リ處分ス

明治二十一年一月三十一日

警察署 分署

街路前營業人力車宿屋取締規則施行ニ付取扱心得別紙之通相定ム

(別紙)

第一條 街路前營業人力車宿屋取締規則取扱心得  
街路取締規則第二條自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠リ之ヲ

爲サ、ルモノハ懇篤ニ説諭ヲ加ヘ之ヲ行ハシムルハ勿論ナリト雖モ仍ホ其命ニ從ハサレハ之ヲ罰スルノ外官ニ於テ直ニ執行シ其費用ヲ本人ヨリ追徴スルモノトス

第二條 全第三條第三項ノ日除ハ可成布若クハ紙類ニ限ラシメ且不体裁ノ設ゲナカラシムヘシ

第三條 全第五條第一項街路ニ井戸ヲ設クルコトハ將來可成許可セサルヲ可トス

第三項工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スルトキハ實地ノ都合ニ依リ可成全路ヲ閉塞セサルヲ要ス

第八項街路ノ使用ヲ許可シタルキハ其尺度及ヒ日限等適宜標札ニ記シ揭示セシムヘシ

第四條 全第八條街路ニ沿フ空地ヘ塙塙ヲ設ケシムルハ邸宅ノ門前若クハ商家ノ店頭等ニ特ニ設ケタル空地ニシテ別ニ市街ノ体裁ヲ損スルニ至ラサルモノ、外相當建家ノ存スヘキ塙所ニシテ奥行九尺以上ナル空地ハ街路ノ境界ニ之ヲ設ケ軒並ノ体裁ヲ整ヘシムルヲ要ス

第五條 全第二十三條第二十四條積雪ノ掃除及炎天風日ニ淨水ヲ洒クカ如キハ可成急速ニ之ヲ執行セサレハ其効少キモノニ付斯

ル場合ハ官ニ於テ直ニ之ヲ執行シ而シテ其費用ヲ徴スルコトニ豫メ定メ置クモ可ナリトス

第六條 (明治二十四年訓令保第一號削除)

第七條 車体ノ検査ハ專ラ安全ヲ保ツノ認メナカルヘカラサルモノニ付其検査ハ最モ鄭重ヲ旨トス且營業鑑札並車体検査等ニ付テハ營業者ヲシテ煩勞ヲ厭ハシメサル様注意スヘシ

第八條 營業人力車取締規則第二條營業者ニ於テ腕子鑑札ヲ請求シタルトキハ其腕子ヲ呼出シ資格ニ適合スルヤ否取調ヘノ上鑑札ヲ下付スヘシ明治二十四年訓令保第一號改定

第九條 全第十條ニ依リ車ノ使用ヲ差止タル場合ハ直ニ該検査証ヲ引揚ケ其制限ニ適スルニ至ルヲ待テ検査ノ上之ヲ返付スヘシ

第十條 (明治二十五年訓令保第六號削除)

第十一條 (明治二十三年訓令警第十八號削除)

第十二條 (全上)

第十三條 全則第十九條第二項冠リ物ハ可成一月ヨリ五月十月ヨリ十二月マテハ大黒帽子黒紺色ヲ要ス六月ヨリ九月迄ハ鰻頭笠黒紺色ヲ要スヲ用ヒシムヘシ但雨天ノトキハ此限ニアラス明治二十一年訓令警第四號改定

第十四條 全第四十一條道路ニ設ケタル駐車場一時休足ヲナシ又

客ヲ昇降セシムルノ用ニ供スルマテニ過キサレハ道路ノ体裁ヲ損シ清潔ヲ害スヘキ所業ヲ爲サシムヘカラス而シテ公設駐車場ハ往來ノ繁閑等ニ應シ通行ノ妨害トナラサル場所ニ適宜之ヲ設クヘシト雖モ多少道路ノ妨害タルヲ免レサレハ可成私設駐車場ヲ設ケンメ公設駐車場ノ數ヲ減スルヲ要ス

第十五條 前條公設駐車場標木ハ左ノ如ク調製シ左右境界へ建設スヘシ  
一 四寸角高サ上地四尺  
一 正面左右ノ三方ハ是ヨリ(東西又ハ南北場内ノ距離)公設駐車場トシ裏面ハ(年月日)何警察署ト大書ス

第十六條 全第四十四條ニ規定スル私設駐車場ハ官有地及街路ノ部分ニ設クルヲ許サス明治廿一年訓令 警察署第四號改正

第十七條 私設駐車場ノ設置ヲ届出ルルキハ實地ヲ検査シ他ニ妨害又ハ不体裁ナキキハ認可ヲ與フヘシ明治廿一年訓令 警察署第四號改正

第十八條 (明治二十四年訓令保第一號削除)

第十九條 (全上)

第二十條 (全上)

第二十一條 (明治二十四年訓令保第一號削除)

第二十二條 (全上)

第二十三條 (全上)

第二十四條 (全上)

第二十五條 (全上)

第二十六條 人力車營業鑑札車体検査証ハ別紙第一號第二號並人力車營業人臺帳ハ第三號第四號宿屋營業人臺帳ハ第五號様式ニ依リ調製スヘシ

但人力車營業鑑札車体検査証ハ通シテ三年間用ニヘキ者トス (第三號乃至第五號臺帳様式畧ス)

第一號様式

木製縦三寸横二寸二分

第何號	高根縣
明治何年	何警察署烙印
何月何日	又ハ可啓 察署何分署
○人力車營業鑑札	
面	何々組 氏 名
	年齢 腕子ナレハ (別紙別紙添 添書ニ全シ) 何某腕子

裏	檢	○	查
明治二十一年	何月何日	全	二十三年
何月何日	何月何日	全	何月何日

紙三分  
五厘板

第二號樣式  
木製縱四寸五分橫三寸五分

第 號

車 體 檢 查 之 證	島根縣 何警察署 烙印 又、何警察分署			何月何日		
	全	全	全	何月何日	何月何日	何月何日
	二十三年	二十二年	二十一年	何月何日	何月何日	何月何日
	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日

（組合名稱）例ハ出雲國松江何々組又ハ何郡何組或ハ何郡何組ト記スルノ類

（營業者氏名）例ハ出雲國何郡（借車ナレハ）何村何ノ誰（借車）何郡何村何番地（寄留ナレハ寄留身分）（所有者ナレハ）持車 何ノ誰

明治何年何月何日

甲第四十六號

明治十九年四月十七日

道路掃除及溝渠下水廁圍塵捨場取締規則別紙之通相定メ明治十一年一月本縣甲第十六號同十三年八月本縣甲第四百四十五號同十五年二月本縣

甲第三十四號布達ハ廢止ス此旨布達候事

但從來設置セル溝渠下水廁圍塵捨場ニシテ此規則ニ觸ル、モノハ來ル五月三十一日マテニ改造スヘシ若シ右期限内ニ改造シ能ハサルモノハ事情ヲ具シ郡役所ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

（別紙）

道路掃除及溝渠下水廁圍塵捨場取締規則

第一條 道路掃除ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ負擔スヘシ

但特ニ其負擔ノ定メアルモノハ此限ニアラス

一 其兩側居住人ニ於テ道路ノ中央ヲ限界トシテ折半之ヲ負擔シ其片側ナレハ一方ノ居住人ニ於テ負擔スヘシ尤廣場橋脚大除地等

類ノニ接スルモノハ屋敷地外五間ヲ限リトス

二 屋敷地ニ接セル道路廣場橋上及市街村落以外ニ係ル道路

橋梁ノ掃除ハ該地元町村ノ負擔トス

第二條 道路ノ掃除ハ市街及人家稠密ノ村落ニ於テハ常ニ之ヲ行

ヒ其他ハ毎月一回以上之ヲ行フヘシ

但暴風雨等ノ後ハ其都度必ス掃除スヘシ

第三條 道路ノ掃除ハ塵芥雜草及不潔物ヲ除去シ凸凹高低ノ箇所

ハ適宜砂利等ヲ加ヘテ平坦ナラシメ都テ其形体ヲシテ變損セシムヘカラス

但市街ニ在テハ降雪ノ堆積シタルハ道路ノ中央四尺以上之ヲ除クヘシ

第四條 並木等ノ風折雪折若クハ倒木等道路ニ遮キルモノハ差向キ通行ニ差支ナキ様取片付置キ直ニ戸長ニ届出ヘシ其樹木各自ノ所有ニ係ルモノハ速ニ取除クヘシ

第五條 戸長ニ於テ前條ノ届ヲ得タルハ速ニ郡長ニ届出ヘシ

第六條 溝渠下水ノ浚渫ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ負擔スヘシ

- 一 各自所有地ノ周圍ハ該地主ニ於テ負擔スヘシ
- 二 兩個ノ地ノ中間ニアルモノハ双方ノ地主ノ負擔トス
- 三 諸橋畔廣場内又ハ其周圍及一町村又ハ數町村ニ涉ルモノハ該關係町村ノ負擔トス

第七條 市街地ニアル溝渠下水ノ構造ハ左項ニ從フヘシ

- 一 溝側ニハ石材木材ヲ用ヒ又ハ土樋土樋ノ類ヲ埋設シ汚液ノ地中ニ滲透スルヲ拒クヘシ
- 二 人家ニ接シタルモノハ被蓋被蓋ノ水流入ニ妨ヲ設クヘシ

- 三 一定ノ廣サ深サノ外肥料溜ニ類スル裝置ヲナスヘカラス
- 四 公衆ノ用ニ供スル飲料井水ニ接近シタル場所ハ前各項裝置ノ外石材或ハ木材ヲ用ヒ溝底ヲ設クヘシ

第八條 溝渠下水ノ浚渫ハ市街及人家稠密ノ村落ニ於テハ毎年二回四月之ヲ施行シ其他ノ地方ニ於テハ路傍ニ在ルモノハ該道路掃除ノ時々其他ハ適宜ニ之ヲ施行スヘシ

但淤泥塵芥等疏通ヲ壅塞スルカ又ハ官ヨリ臨時浚渫ヲ命シタルハ其時々施行スヘシ

第九條 前條着手ノ期日ハ戸長之ヲ定メ郡長及警察署又ハ分署ニ報告シ人民各自ノ負擔ニ係ルモノハ豫メ其人民ニ告知スヘシ

第十條 市街ニハ適當ノ場所ヲ撰ミ一町村若クハ數町村内ニ一ヶ所若クハ數ヶ所ノ厠圍小便所又ハ塵捨場ヲ設ケテ公衆ノ用ニ供スヘシ其位置ハ戸長之ヲ撰定シ其敷地坪數近傍人家井川ノ距離並構造スヘキ圖面ヲ添ヘテ郡長ニ伺出ヘシ若シ其敷地借地ナルトキハ地主ノ承諾書ヲ添フヘシ若シ之ヲ廢スルハ届出ヘシ

第十一條 公衆ノ用ニ供スル厠圍塵捨場ヲ自費ニテ建設セント欲スルモノハ前條ノ手續キニヨリ本人ヨリ郡長ニ願出ヘシ

第十二條 厠圍塵捨場ヲ設廢若クハ改修シタルハ警察署又ハ分

署へ届出検査ヲ受クヘシ

第十三條 廁圍及塵捨場ノ構造位置ハ左項ニ從フヘシ

- 一 廁圍ニハ星形ヲ設ケ雨水ノ浸入及外見ヲ拒キ其大便所ニハ必ス戸ヲ設且適當ノ位置ニ窓ヲ造リ空氣ノ流通ヲ宜クスヘシ
  - 二 屎尿溜ハ石材又ハ陶器ヲ用ヒ其周圍ハ石敷又ハ(タ、キ)等ヲナシ汚液ノ地中ニ滲透スルヲ拒キ大便所ノ踏板ハ糞池ヲ距ル一尺五寸以上ノ高ヲ要ス
  - 三 廁圍ハ道路ニ背面スヘシ若シ不得止道路ニ面スルハ必ス見隠シヲ設クヘシ
  - 四 塵捨場ハ地面ニ板張り石敷又ハ(タ、キ)等ヲナシ其周圍ハ緊密ナル板圍ヒヲナシ汚液ノ地中ニ滲透若クハ汚物ノ散亂スルヲ拒クヘシ
  - 五 廁圍及塵捨場ハ飲料用井川ヲ距ル五間以上ニシテ人家ニ接近セサルヲ要ス
  - 六 道路ニ廁圍ヲ設クルハ其路傍五尺以内ノ場所及曲角ニ設ケ二間以外ノ場所ニ限ル尤モ溝渠上ニ設クヘカラス
- 但他ニ設置スルノ場所ナキハ特ニ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ

シ

第十四條 廁圍及塵捨場ハ其所有主ニ於テ屎尿塵芥ノ堆積セサルニ先テ時々取除クヘシ尤モ一定ノ受負人ヲ定メテ之ヲナサシムルハ適宜タルヘシ且其所有主及受負人ノ住所姓名ハ其廁圍及塵捨場ニ掲付スヘシ

第十五條 市街及左ノ道路ニ接シタル場所ニ於テハ各自所用ノ廁

圍ト雖モ沿道ノ軒下若クハ道路ニ面シテ之ヲ設クルヲ許サス尤モ他ニ設置スヘキ場所ナキハ郡長ニ願出許可ヲ受クヘシ

- 一 國道
- 一 宍道ヨリ赤名ニ達スル道路
- 一 濱田ヨリ市木ニ達スル道路

第十六條 溝渠ノ浚渫廁圍塵捨場ニ係ル一切ノ費用ニシテ一町村

若クハ數町村ノ共同負擔ニ屬スルモノハ其關係町村費ヲ以テ支辨シ一個人ノ負擔ニ係ルモノハ各自辨タルヘシ

但從來ノ慣行若クハ特約アルモノハ此限ニアラス

第十七條 町村共同ノ負擔ニ係ル道路ノ掃除ハ戸長ニ於テ豫テ組

合ヲ設ケ其組合ノ受持丁場ヲ定メ置クヘシ

但從來ノ慣行アルモノハ之ニ從フモ妨ケナシ



第十八條 此規則ニ掲クル市街トハ當分左ノ場所及之レニ接續シタル町村ノ一部トス

松江 安來 廣瀬 大東 木次 平田 今市 杵築 大田 大森 郷田 濱田 益田 津和野 西郷港 温泉津

第十九條 第四條私有ニ係ル風折雪折倒木等ノ取除キヲ怠リ又ハ第七條第十三條ニ違ヒタル溝渠下水廁圍塵捨場等ノ改造修繕ヲ怠リ官署ノ督促ヲ受クルモ之ニ應セサル者及第十一條第十二條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス  
明治廿二年縣令第七十一號改正

縣令第十四號 明治二十一年一月十八日

本年縣令第七號ヲ以テ街路取締規則施行ニ付明治十九年本縣甲第四十六號布達道路掃除及溝渠下水廁圍塵捨場取締規則中清潔法ニ係ル條件ハ松江市街及之ニ接續シタル町村ニハ適用セス  
訓令警第十七號 明治二十一年七月十二日

警察署 分署

本年縣令第九號中人家稠密地トアルハ左ノ場所ト心得ヘシ

人家稠密地

島根郡及意字郡

松江市街及其接續連擔地

島根郡

本庄町

三保關

意字郡

湯町

宍道町

玉造村字湯ノ端  
揖屋村字東揖屋

揖屋村字西揖屋

出雲郷村字町

秋鹿郡

秋鹿町

能義郡

安來町

吉佐村字町通り

母里町

大塚町

荒島村字町

廣瀬

西比田町

仁多郡

三成町字三成

横田村字横田

下横田村字古市

龜嵩村字龜嵩

上阿井村字上阿井

八代村字八代

大原郡

木次町字木次  
加茂中村字加茂  
飯石郡  
三刀屋町村字三刀屋  
吉田町村字吉田  
赤名町字赤名  
神門郡  
今市村連櫓ノ大石村共  
大津町及連櫓大石村共  
杵築東西南北村字杵築  
宇龍浦  
神西村冲分字原組  
多岐村字市場及上ノ  
日田儀村字町  
楯縫郡  
平田村市街連櫓共  
出雲郡  
下庄原村字町

大東町村字大東  
大東下分村字町  
掛合町字掛合  
波田村字町  
頓原町字頓原  
下搦冶村ノ内元徳谷町及連櫓地共  
古志町  
修理免村字原町  
日御碕  
久村字町及向ノ  
小田村字町  
差海村字西口向口共  
園村

直江町並連櫓スル下直江村

安濃郡  
上直江村字岩ノ原  
波根東村  
鳥井村字山根  
鳥越村字新田  
波根西村字久手  
川合村字町  
池田村字町  
邇摩郡  
温泉津村市街  
福光村字今浦  
大家本郷市街  
佐摩村字大森町  
仁万村字町  
磯竹村字大浦港  
久利村字町  
邑智郡  
川本村市街

波根西村字柳瀬  
鳥井村字鳥井  
刺賀村字西川  
大田町  
吉永村字町  
志學村字湯ノ谷  
小濱村市街  
吉浦村市街  
西田村市街  
佐摩村字銀山町  
宅野村字町  
靜間村字和江浦  
祖式村市街

二百六十六

市山村字市	川戸村字町
粕淵村字小原	濱原村市街
出羽村字八日市	三日市村市街
市木村字町	日貫村字町
下口羽村字町	
那賀郡	

濱田市街及接續地共	下府村字町
丸原村字町	今市村字町
和田村字町	熱田村字町
長濱村字町	郷田村字郷田
市村字川登	和木村字和木
都野津村字都野津	跡市村字兩町
淺利村字淺利	黒松村字黒松
岡崎村字三隅驛	向野田村字郷
港浦	
美濃郡	
益田本郷字益田驛	横田村字横田
津田村字濱	木部村字向市

飯浦村字飯浦	小濱村字小濱
高津村字高津驛	都茂村字郷
山本村字郷	
鹿足郡	
津和野	日原村
青原村	六日市村
七日市村	長福村
周吉郡	
西郷港町	
知夫郡	
浦郷村字本郷	

○第二章 堤防取締規則  
 縣令第六十一號 明治廿一年五月三十一日

堤防取締規則別紙ノ通定  
 (別紙)

堤防取締規則  
 第一條 本則ニ於テ堤防ト稱スルハ官有河川ノ堤防ヲ云フ  
 第二條 使用上ヨリ來タル毀損ノ修繕ハ總テ使用主ノ負擔ト

ス

但其修繕ヲ怠リ官廳ノ督促ヲ受クルモ之ニ應セサルトキハ官  
ニ於テ直チニ修繕ヲ爲シ其費用ヲ使用主ヨリ徴收ス

第三條 堤防敷地ハ貸下ヲ許サス  
但從來特ニ使用ヲ許シタルモノハ本條ノ限ニアラス且治水ニ  
障害ナクシテ公益ノ爲メ使用セントスルハ特ニ許可スルコ  
トアルヘシ

第四條 堤防ニ於テ左ノ事項ヲ禁ス

- 一 根圍關板ヲ破却シ又ハ堤敷ヲ掘鑿シ幅員ヲ狭ムル事
- 二 土止メ垣柵類ヲ毀損スル事
- 三 土砂ヲ掘取ル事
- 四 芝草ヲ剥取ル事
- 五 艸藁塵芥ヲ燒ク事
- 六 船又ハ筏ヲ引ク爲メ堤腹ヲ通行スル事
- 七 根圍及腹付石垣ニ於テ捕魚ヲ爲ス事
- 八 牛馬ヲ飼養スル事明治二十一年縣令第七十號改正
- 九 木竹等ヲ建設シテ乾物ヲ爲ス事
- 十 標杭及官有樹竹ヲ傷害スル事

十一 樹木ヲ植ユル事

十二 木竹其他石類ヲ蓄積スル事

十三 家屋又ハ仮小屋ヲ建設スル事

十四 瓦礫塵芥其他汚穢物ヲ投棄スル事

第五條 第四條ニ違背シタルモノハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下  
ノ科料ニ處ス但刑法ニ正條アルモノハ各其本條ニ依リ處分セツ  
ルヘシ

○第三章 水防規則

縣令第七十九號

明治二十年八月十日

水防規則左ノ通制定シ本年九月一日ヨリ施行ス

但規則第一條ニ依リ速ニ組合相立所轄郡役所及警察署又ハ分署  
ヘ届出ヘシ郡役所ニ於テハ其部内取締當廳ヘ申出ヘシ

水防規則

第一條 第一種第二種河川堤防及同種道路線ニ架設シタル橋梁ノ  
水防ハ其地元及關係町村ニ於テ組合ヲ設ケ之ヲ負擔シ堤防ハ請  
持區域境橋梁ハ便宜ノ箇所ヘ其受持標木ヲ建設スヘシ

但人民私設ニ係ル橋梁ハ其所有者ニ於テ負擔スヘシ

第二條 斐伊川上流谷村新川下流神戶川馬木村伊梨川山佐布部西川四川ハ堤防

百間ニ付左ノ割合ヲ以テ常ニ杭木以下ノ諸品ヲ最寄便宜ノ場所  
ヘ備置クヘシ明治二十年法令  
第四百四號改正

但他ノ諸川ハ水勢ノ強弱橋梁ノ大小等ヲ計リ本條ニ準シ適宜  
ニ備置ヘシ

- 一 杭木長短  
取交 百本 一 掛失 五挺
- 一 鋏 但長六尺以上 五挺 一 鋤簾 三挺

- 一 鳶口 五挺瓦礫區或内橋梁ア  
ル組合町村ニ限ル 一 荷棒 三本
- 一 蘆 三個 一 繩百五十房 二十貫目

- 一 空俵 四百俵 一 薪 五十貫目
- 一 明松 五十本 一 薪 二十貫目

以上ノ員數ハ本條ニ掲クル四川ト雖モ堤防ノ大小水勢衝突ノ  
景況ニ據リ斟酌増減スルヲ得尤モ其他ノ物品ト雖必要ト見認  
ムルモノハ適宜増加シ其増減ヲ要スルモノハ所轄郡役所ノ認  
可ヲ受クヘシ

第三條 出水ノ景況アル中ハ戸長ハ縣廳及所轄郡役所ニ飛報スヘ  
シ郡役所ニ於テハ直チニ吏員ヲ派遣シ水防ヲ指揮セシムヘシ

第四條 出水ノ景況アル中ハ地元町村人民ハ速ニ受持場ニ駆付ケ

樋門ノ閉鎖橋梁ノ支持其他防禦ニ必要ナル手當ヲナシ尙水量増  
嵩スル中ハ堤防及橋梁等ノ要所ニ相當ノ人員ヲ配置シ嚴重ニ警  
戒スヘシ

第五條 堤防前樋門漏水又ハ橋梁流失等ノ虞アルニ際シ地元町村  
ニテ人員不足ナル中ハ組合村民ヲ召集シ尙防禦シ能ハサル場合  
ニハ他ノ組合ニ助勢ヲ求メ若シ堤防決潰ニ及フトキハ速ニ一般  
ニ警報スヘシ

第六條 警報ハ相當官吏ノ指揮ヲ受ケ左ノ區別ニヨリ之ヲ急スヘ  
シ

- 一 組合村民ヲ召集スルハ 二點鐘○○○○○
- 一 他ノ組合ニ助勢ヲ求ムルハ 三點鐘○○○○○
- 一 一般警報ハ 亂打鐘○○○○○

第七條 應援ノ急報ヲ得タル中ハ他組合村々ニ於テハ彼此ノ緩急  
等ヲ計リ速ニ水防用具ヲ携帶助勢スヘシ

第八條 水防上ニ付テハ相當官吏ノ指揮ヲ受ケ且堤防橋梁樋管等  
ニ危險ノ模様アル場合ニ於テ防禦ニ必要ナル物品ヲ徵收スル中  
ハ速ニ之ニ應スヘシ

第九條 洪水ノ際土取りニ困難ノ場所ハ其受持町村ニ於テ豫テ防

禦土トシテ種管ノ脇及堤防ノ裏腹等へ適宜ニ積置クヘシ

第十條 水防備品ハ三月毎ニ所轄郡役所ノ検査ヲ受クヘシ警察官吏ハ之ニ立會又ハ臨時點檢スルコトアルヘシ

第十一條 第三種河川堤防及同種道路線ニ係ル橋梁ニ在テハ必スシモ此規則ニ依ルヲ要セスト雖モ其須要ニ從ヒ町村ニ於テ適宜防禦法ヲ設ケ置クヘシ

○第四章 田圃害蟲驅除豫防規則

甲第三十一號 明治十九年二月廿七日

田圃害蟲驅除豫防規則左之通相定候條此旨布達候事

田圃害蟲驅除豫防規則

第一條 本則ニ據リ豫防又ハ驅除スヘキ害蟲左ノ如シ

- 一 螟蟲、方言 ズキムシ、シムムシ、ゲムシ、カラムシ、サシムシ
- 一 浮塵子、方言 コムシ、ヌカムシ
- 一 地蠶、方言 ガンド、ガーデ、ヨトウ、ゴウジヨウ

第二條 害蟲田圃ニ發生シタルトキハ其地作人ハ直ニ戸長役場ニ届出驅除豫防スヘシ

但害蟲ハ妙、螟蛉、蝶蛾、蠶、卵子、蛹、等其形狀ノ如何ヲ問ハス總テ本條ニ據ルモノトス

第三條 前條ノ場合ニ於テハ戸長ハ實地ノ景況ヲ取調ヘ届出ヘシ

第四條 作人ニ於テ害蟲ノ驅除豫防ヲ廢停スト雖モ戸長ニ於テ尙必要ト認ムルキハ引續施行セシムルコトアルヘシ

第五條 害蟲ヲ發見スルモ其季節驅除豫防ニ便ナラサルキハ戸長ニ於テ相當ノ延期ヲ與フルヲ得

第六條 一町村ヲ限リ驅蟲地區トシテ戸長ニ於テ害蟲蔓延ノ徵アリト認ムルキハ物業委員協議ノ上其區劃内農民ヲ指揮シ驅除豫防ニ從事セシムヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ其旨戸長ヨリ届出且隣接戸長役場ニ急報スヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テハ縣廳若クハ郡役所ヨリ指揮シ驅除豫防セシムルコトアルヘシ

第八條 前二條ノ場合ニ於テハ其町村ノ便宜ニ據リ驅除世話係ヲ置クヲ得

第九條 第六條第七條及第八條ノ場合ニ於テハ其驅除豫防ニ係ル一切ノ費用ハ町村費ヲ以テ支辨スヘシ

第十條 第一條ノ害蟲外ト雖モ其被害酷シキキハ本則ニ據リ驅除豫防スルヲ得

但時機ニヨリ縣令ヨリ特ニ命令シ驅除豫防セシムルコトアルヘシ

第十一條 第二條ノ届出ヲナサス又ハ其驅除豫防ヲ怠タルモノ第四條第六條第七條第十條ノ命令指揮ニ違背シタルモノハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス明治二十二年縣令第七十四號改正

○第五章

山野火入取締規則

縣令第五十三號 明治廿一年五月十五日

山野火入取締規則左ノ通相定ム

但本則ニ抵觸スル從前ノ達ハ廢止ス

山野火入取締規則

第一條 山野ニ火入ヲナサント欲スルモノハ左ノ各項ヲ具シ所轄郡役所ヘ願出テ認可ヲ受クヘシ

但切替畑ヲ開キ或ハ開墾若クハ樹苗植付等ノ爲メ火入ヲナサント欲スルモノハ本條ノ手續ヲ要セス明治二十一年縣令第百一號改正

- 一 火入ノ目的
- 一 火入ノ期日
- 一 個所限地目反別及字番號
- 一 四至境界ヲ見ルヘキ實地畧圖

第二條 山野ニ火入ヲナサント欲スル者ハ其山野ニ接シタル境界

ニ防火線ヲ設ケ且其近接山野所有者官林ナレバハ小林區署若クハ大(林區署派出所或ハ官林巡邏ヘ)所轄警察署又ハ分署巡查駐在所ノ内及所在戸長役場ヘ少ナクモ火入期日五日以前ニ此旨報告スヘシ尤モ當日雨天若クハ風勢變動等ノ爲メ火入ヲ爲シ難キトキハ日送リヲ以テ行フヘシ此場合ニ於テハ更ニ報告ヲ要セス明治二十一年縣令第百一號及全二十四年縣令第五十八號改正

但前條但書ノ場合ニ於テ火入ヲ爲スモノハ本條報告ノ手續ヲ要セス明治二十一年縣令第百一號改正

第三條 防火線ハ都テ幅三間以上トシ線内ノ柴草ヲ刈取り落葉及塵芥ヲ除去リ或ハ土堤又ハ堀溝等ヲ設クヘシ

但道路谿谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ地ハ此限ニアラス

第四條 風勢穩ナラサル中ハ火入ニ着手スヘカラス明治二十一年縣令第百一號改正

第五條 火入ノ期日間ハ番人ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ルマテ其場ヲ退カシムヘカラス

第六條 火入認可ヲ受ケタルモノ及第一條但書ノ場合ニ於テ火入ヲ爲スモノト雖モ郡長警察官吏大小林區署員大林區署派出所員又ハ官林巡邏若クハ戸長ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタル中

若クハ風勢ノ變動等ニヨリ他ニ延焼ノ虞アリト思料スルハ直  
ニ之ヲ中止セシムルヲアルヘシ明治二十一年縣令第百一號及全  
二十四年縣令第百五十八號改正

第七條 第一條第二條第三條第四條第五條ニ違背シ及第六條ノ中  
止ヲ肯セサルモノハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十類 漁業

○第二章 漁業

甲第百二十四號 明治十六年十二月八日

潜水器械漁業取締規則左ノ通相定メ來ル明治十七年一月一日ヨリ  
施行ス

右布達候事

潜水器械漁業取締規則

第一條 潜水器械ヲ使用シテ魚介蟲藻ヲ採取セントスルモノハ此  
規則ニ從ヒ第壹號願書式ニヨリ營業地ノ郡役所以下郡役所ト  
亦々全シヲ經テ  
縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

但營業鑑札ハ本條ノ許可ヲ得タル後更ニ郡役所ニ願出其下付  
ヲ請フヘシ

第二條 第一條ノ營業ヲナサントスルハ必ス營業場借區ノ許可  
ヲ受クヘシ

但借區願書ハ詳細ノ圖面ヲ添ヘ第一條ノ願書ト共ニ差出スヘ  
シ

第三條 郡役所ニ於テ前兩條ノ願書ヲ受ケタルトキハ關係町村故  
障ノ有無ヲ取調ベ其調書ニ意見書ヲ添ヘ併テ縣廳ヘ進達スヘシ

第四條 關係町村ニ於テ若故障アル場合ニ於テハ其事由ニヨリ本  
則ノ營業ヲ許可セサルヲアルヘシ

第五條 營業及借區ハ其許可ヲ得タルヨリ滿一ケ年ヲ以テ一期  
トス滿期後引續キ營業セントスルハ更ニ第一條第二條ノ手續  
ヲナスヘシ

第六條 潜水器械ノ使用ハ出雲國石見國隱岐國各二器ヲ限リ許可  
スヘシ

第七條 一町村ノ地先ニ於テ一期間營業ノ日數ハ廿五日ヲ超ユヘ  
カラス

第八條 一町村ノ地先ニ於テ同時ニ二器ヲ使用スヘカラス

第九條 借區内ト雖モ深サ廿五尺以内ノ場所ニ於テ潜水器械ヲ使  
用スヘカラス

第十條 左ノ水族ハ潜水器械ヲ以テ採取スルヲ得ス  
一 捕獲ノ許可ヲ得サルモノ



二 別段ノ達若クハ規則ヲ以テ捕獲ヲ禁シタルモノ  
三 幅徑曲尺三寸五分以下ノ鮪

第十一條 毎年九月廿一日ヨリ十月廿日迄ノ間ハ潜水器械ヲ使用スヘカラス

第十二條 借區内ト雖モ潜水器械ヲ用ヒサル漁業ハ一切之レヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 營業中ハ其船體又ハ適宜ノ位置ニ第二號雛形ニ示シタル旗章ヲ立ツヘシ

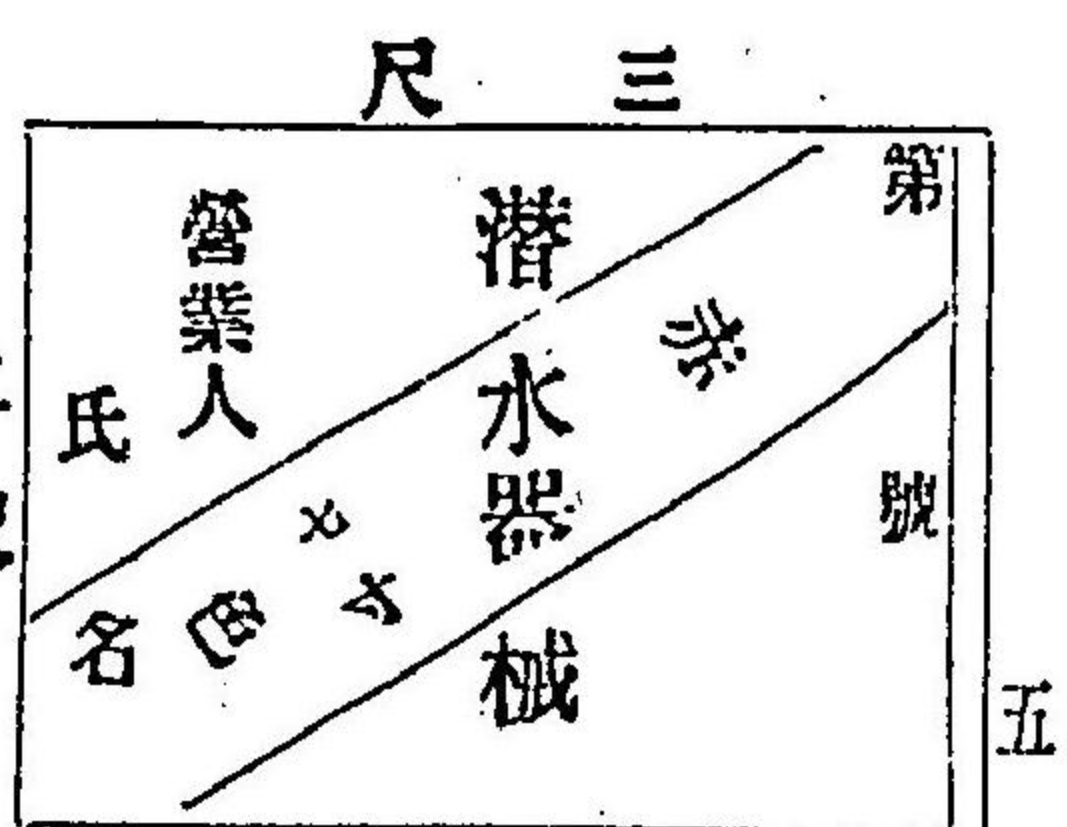
第十四條 營業場ノ廣狹及水族繁殖ノ景況ニヨリ第六條ノ製限ヨリ器械ノ數ヲ減少シテ許可シ又ハ現ニ使用スル數ヲ減セシメ又ハ一切器械ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第十五條 第一條第五條第七條第八條第九條第十條第十一條第十三條ヲ犯シタルモノハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

明治廿二年縣令  
第七十二號改正

(第一號願書式略ス)

第二號旗章雛形



縣令第五十二號

明治二十一年五月八日

明治十九年<sup>九</sup>縣令第三十號石見國郷川外六川漁業取締法左ノ通改正ス

石見國諸川漁業取締規則

第一條 石見國諸川ニ於テ一月一日ヨリ五月三十一日マテ鮎漁ヲ禁ス

第二條 同上諸川ニ於テ四月一日ヨリ五月三十一日マテ「イダ」漁ヲ禁ス

第三條 吉賀福川津和野匹見高津紙祖ノ六川ニ於テ鮭鱒ヲ禁ス  
明治二十二年縣令  
第三號改正

第四條 同上六川ニ於テ鵜ノ使用落シ雜魚及ヒ火振リノ漁法ヲ禁  
シ一月一日ヨリ五月三十一日マテ筌<sup>セツ</sup>ノ使用ヲ禁ス明治二十二年縣令第三號改正  
第五條 郷川吉賀匹見高津四川左ノ個所ニ於テ魚漁ヲ禁ス

郷川

邑智郡都賀西村字高峽

上角谷瀬尻ヨリ下  
嶋ノ毛ノ瀬頭マテ

全郡明塚村字權現淵

上瀬尻ヨリ  
下瀬頭マテ

全郡川下村字仙岩寺淵

全上

吉賀川

鹿足郡朝倉村字大淵

上瀬尻ヨリ  
下瀬頭マテ

全郡柿木村字大エ口淵

全上

全郡左鏡村字大漁淵

全上

全郡枕瀬村字蛇淵

全上

匹見川

美濃郡匹見村字長淵

上瀬尻ヨリ  
下瀬頭マテ

全郡廣瀬村字黒内淵

全上

全郡澄川村字治郎四郎淵

全上

高津川

美濃郡内田村字庄ノ田濁淵

上瀬尻ヨリ  
下瀬頭マテ

第六條 津和野濱田二川左ノ個所ニ於テ普通釣ノ外他ノ漁法ヲ禁  
ス<sup>レ</sup>津和野川鹿足郡鷺原村字カケノ橋ヨリ全郡後田村鉄砲町橋  
迄二十九町ノ間

第七條 吉賀川左ノ個所ニ於テ鮎掛ノ外他ノ漁法ヲ禁ス明治廿二年縣令  
第三號挿入以下

下瀬

吉賀川鹿足郡日原村字蟹岩ヨリ同郡河村字大井手迄十町ノ間明治  
廿二年縣令第三  
號挿入以下

第八條 本則ヲ犯シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス  
縣令第五十六號 明治二十年五月十六日

水族蕃殖ノ爲メ松江諸堀別紙圖面並線内ニ於テ自今漁業(採介採  
藻共)ヲ禁ス

前項ヲ犯シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス明治廿三年縣令  
第七十六號改正

